

平成21年度

事業概要



沖縄県中央食肉衛生検査所

沖縄県北部食肉衛生検査所

はじめに

平成8年の腸管出血性大腸菌0-157による集団食中毒事件の発生以来、国内における牛海綿状脳症（BSE）、高病原性鳥インフルエンザ及び偽装表示の問題等により、食品の安全に対する消費者の関心が高くなっております。

このような中、当県では食の安全・安心行動計画を中心に生産、製造、加工、流通販売、消費まで総合的な食の安全の推進を図っているところです。

当検査所では、と畜場、食鳥処理場の衛生確保及び微生物汚染防止を図るとともに獣畜の疾病の排除、伝達性海綿状脳症（TSE）スクリーニング検査、食肉中の残留有害物質検査等の業務をとおり、食肉、食鳥肉の安全確保のために日々努力をしております。

今後も食肉の安全・安心を確保するため、日頃から関係機関と緊密な連携をとり、最新情報の収集を行うとともに検査員の知識、技術の向上を図り、常に危機管理意識をもち食肉衛生行政の推進に努力する所存です。

ここに、平成21年度の事業概要をとりまとめましたのでご高覧いただければ幸いです。

平成22年8月

沖縄県中央食肉衛生検査所長

渡 口 政 司

沖縄県北部食肉衛生検査所長

新 里 武 則

凡 例

1 平成 21 年度

期間 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

2 資料の説明には次の略字を用いた。

検査所関係

中央食検：沖縄県中央食肉衛生検査所

北部食検：沖縄県北部食肉衛生検査所

と畜場関係

沖縄県食肉センター：株式会社沖縄県食肉センター

食鳥処理場関係

沖縄食鶏：沖縄食鶏加工株式会社

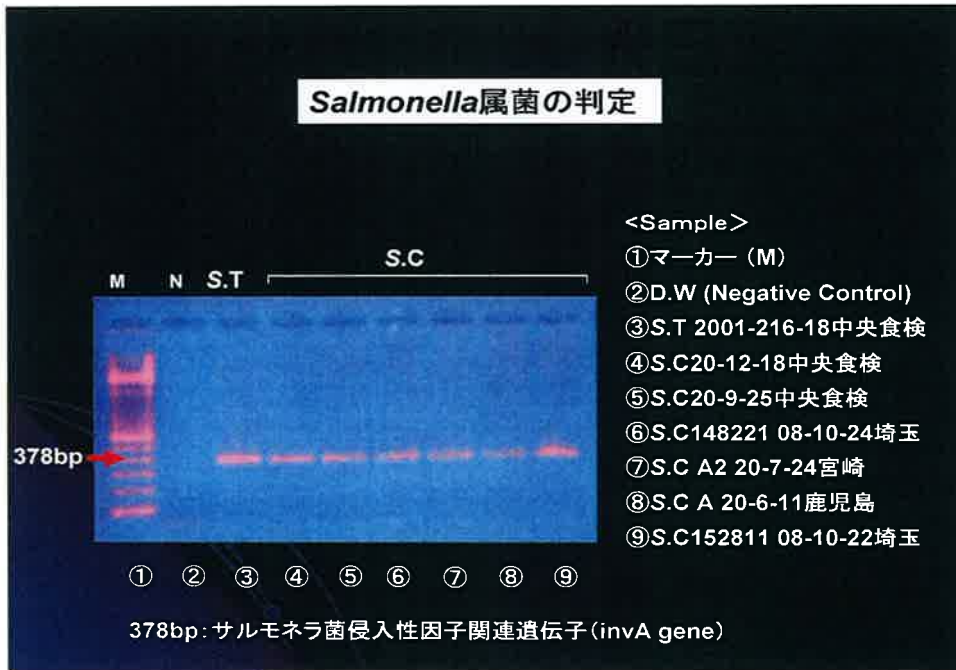
中央食品：有限会社中央食品加工

食鳥流通センター：株式会社沖縄県鶏卵食鳥流通センター

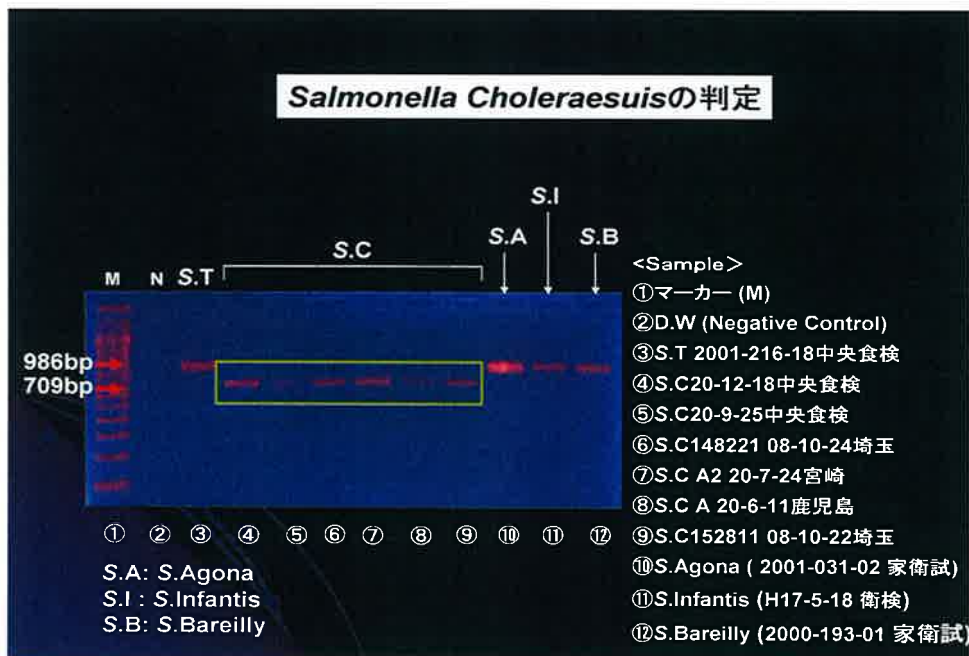
3 用語

「とく」とは生後 1 年未満の牛、「こま」とは生後 1 年未満の馬。

Multiplex PCR を用いた *Salmonella Choleraesuis* の迅速判定法(p55)



InvA 遺伝子の検出による *Salmonella* 属菌の判定
 サルモネラ属は 378bp 領域にバンドが確認できる



Multiplex PCR (MPCR)による *Salmonella Choleraesuis* の判定
Salmonella Choleraesuis にのみ 709bp 領域に 1 本のバンドが現れる

鶏の腫大した肝臓病変の検討(p59)



鶏の胆管肝炎

写真1 肝臓右葉：腫大し、退黄色を呈していた。

退黄色～灰白色の直径 1.5～2 ミリ程度の放射状の病巣が肝臓全体にわたり密在していた。

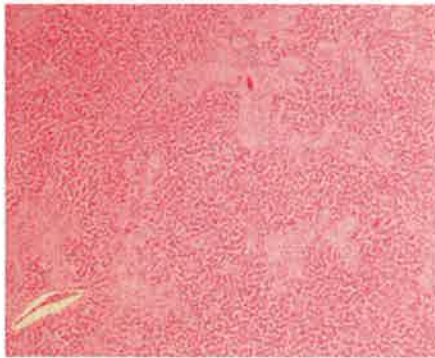


写真2 HE染色

肝臓放射状病巣組織

グリソン鞘を中心に偽好酸球やリンパ球の浸潤を認めた。

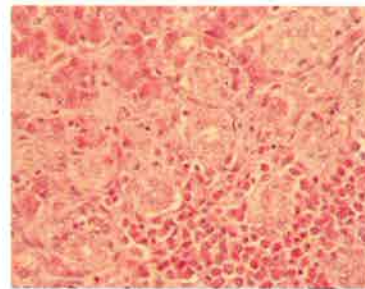


写真3 (写真2強拡大像)

細胆管の著しい増生が認められた。

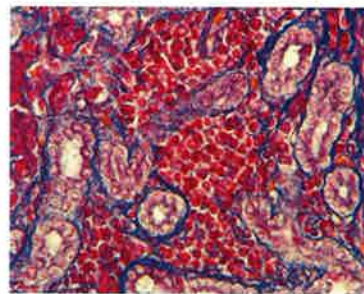


写真4 アザン染色

円形の核と淡明な細胞質を有した細胆管周囲に、青色に染まる膠原線維の増生を伴っている。

目 次

第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	食肉衛生検査所・と畜場・食鳥処理場の所在地	2
3	組織及び機構	3
4	職員構成	3
5	沖縄県行政組織規則（抜粋）	4
6	沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則	5
7	事務分掌	6
8	歳入・歳出決算書	8
9	検査所庁舎の平面図	9
	（1）中央食肉衛生検査所	9
	（2）北部食肉衛生検査所	10
10	主な検査機械器具（備品）	11

第2章 検査事業の概要

I	と畜検査業務の概要	13
1	と畜検査頭数および獣畜のとさつ禁止又は廃棄したものの原因	14
2	月別と畜検査頭数	16
3	月別とさつ禁止頭数	16
4	月別全部廃棄頭数	17
5	畜種別の一部廃棄数	19
6	病畜の主要疾病内訳	21
7	10年間のと畜検査頭数	23
8	10年間のとさつ禁止頭数	24
9	10年間の全部廃棄頭数	25
10	と畜場別の開場日数および検査延べ人員	26
11	と畜場の衛生講習会	26
12	と畜場の衛生監視、指導	26
13	と畜検査データの還元	27
II	食鳥検査業務の概要	28
1	食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ、内臓の摘出禁止又は廃棄したものの原因	29
2	月別検査羽数及び廃棄状況	31
3	食鳥検査結果に基づく処分実羽数（ブロイラー・成鶏）	32
4	食鳥処理場の現状	32
5	食鳥処理場別の開場日数及び検査延べ人員	32

6	10年間の食鳥検査羽数（沖縄県全体と同一）	33
7	認定小規模食鳥処理場	33
	（1）処理場数（とさつ一貫処理）	33
	（2）確認（処理）状況	33
	（3）処理場別の処理羽数	34
	（4）立入検査件数	35
8	食鳥処理場の衛生指導・衛生講習会等	35
III	精密検査業務の概要	36
1	保留に係る精密検査業務実績	36
2	伝達性海綿状脳症（TSE）検査業務実績	38
3	微生物室業務実績	40
4	病理室業務実績	42
5	理化学室業務実績	45

第3章 研修及び調査研究

1	研修及び講習会	48
2	調査研究発表演題一覧	50

第4章 その他

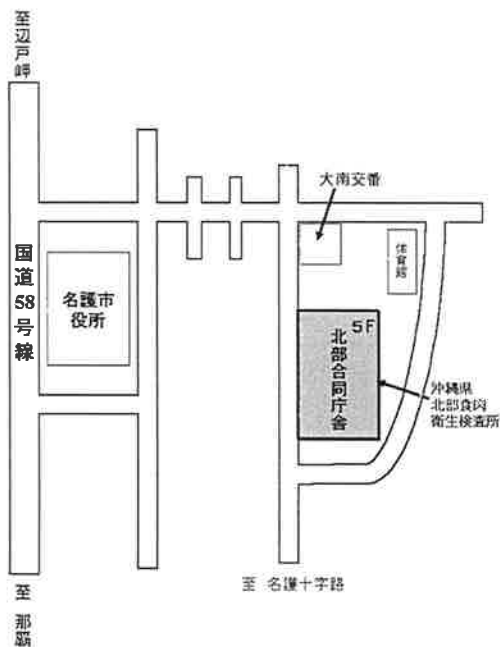
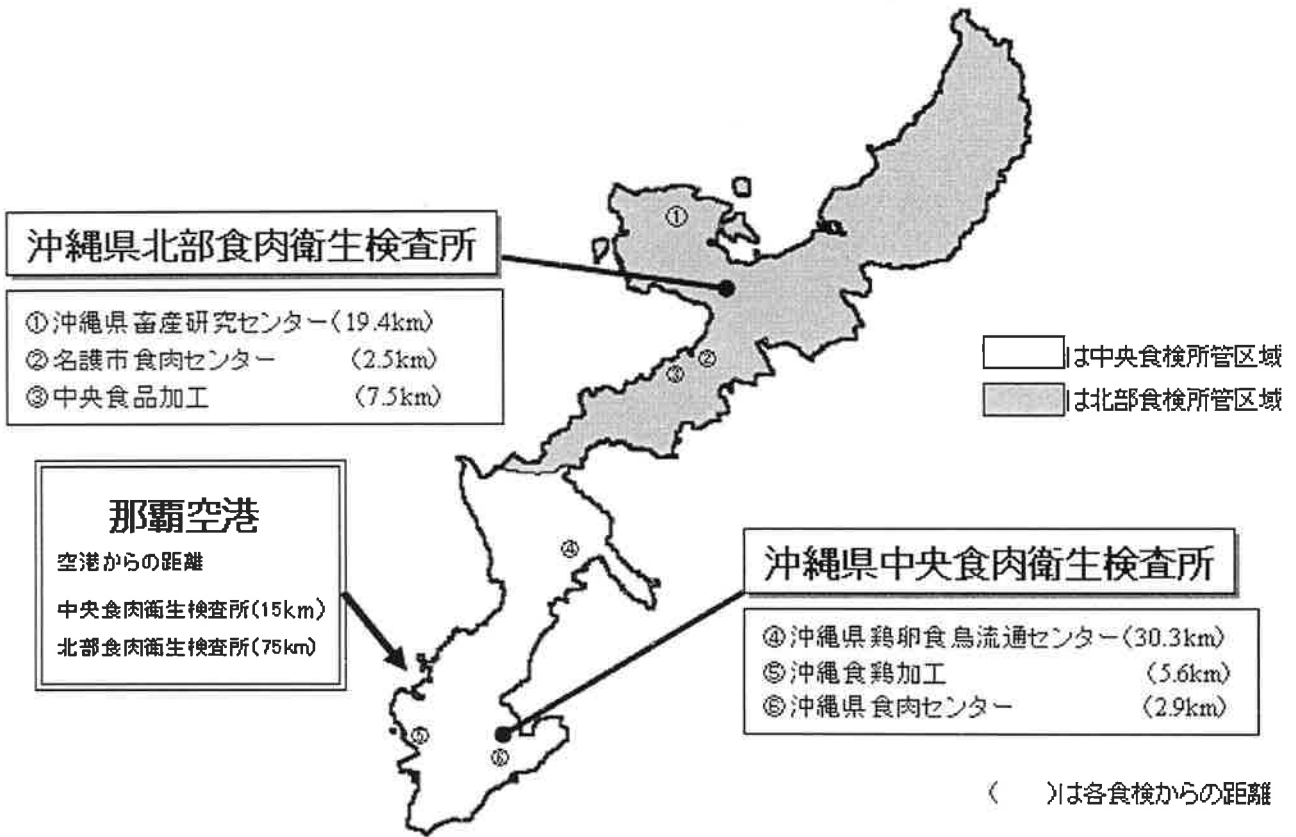
1	と畜場の概要	63
2	食鳥処理場の概要	63
	（1）食鳥処理場	63
	（2）認定小規模食鳥処理場	64
3	と畜場の使用料・解体料一覧	65
4	と畜・食鳥検査手数料等	65
5	と畜検査業務の概要（参考）	66
	（1）10年間のと畜検査頭数（沖縄県）	66
	（2）と畜場別と畜検査頭数（沖縄県）	66
	（3）と畜検査頭数及び獣畜のとさつ禁止又は廃棄したものの原因（沖縄県）	67

第1章 検査所の概要

1 沿革

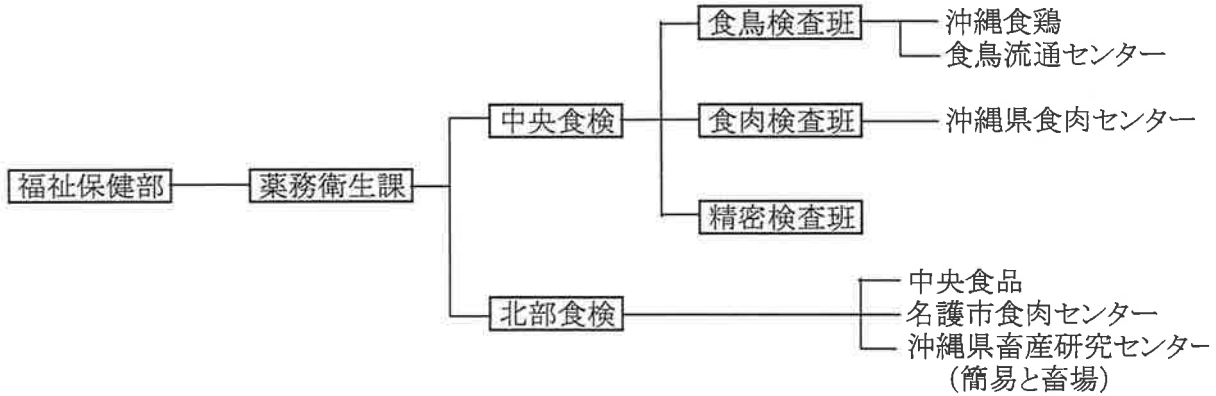
- 昭和 44 年 7 月 : と畜場法に基づく食肉衛生行政は、琉球政府農林局畜産課から厚生局公衆衛生課に移管。
- 昭和 47 年 7 月 : 33 カ所のと畜場設置者に対し、と畜場の構造・設備の改善を勧告。
- 昭和 48 年 5 月 : 33 カ所のと畜場を 12 カ所に整理統合。
- 昭和 49 年 4 月 1 日 : 沖縄県行政組織規則により沖縄県食肉衛生検査所が那覇市曙に設置され、各保健所(名護、宮古、八重山を除く)で所管していたと畜検査業務を集中統合。
- 昭和 49 年 6 月 1 日 : 沖縄県行政組織規則により沖縄県食肉衛生検査所北部支所を設置。
- 昭和 54 年 3 月 : 沖縄県食肉衛生検査所が島尻郡大里村大里 2015 番地に新築移転。
- 昭和 55 年 4 月 : (株)沖縄県南部食肉センターが、(株)沖縄県食肉センターに統合。
- 昭和 57 年 3 月 : 沖縄県食肉衛生検査所北部支所が、名護市字世富慶 923 番地に新築移転。
- 昭和 60 年 4 月 : (株)那覇ミートが、(株)沖縄県食肉センターに統合。2 課制が、検査 1~4 課の 4 課制となる。
- 昭和 63 年 9 月 30 日 : 北部食肉センター(株)が廃業し、沖縄県協同食肉(株)として発足。
- 平成 2 年 12 月 4 日 : 沖縄県食肉衛生検査所北部支所が、国道 329 号線道路改修のため名護市名護 1453 番地に改築移転。
- 平成 4 年 4 月 1 日 : 食鳥検査が実施され、沖縄食鶏加工(株)、(株)沖縄県鶏卵食鳥流通センター、中央食品加工(株)、沖縄畜産(株)の 4 食鳥処理場が検査対象施設となる。
- 平成 5 年 7 月 1 日 : (株)沖縄県鶏卵食鳥流通センターが、処理羽数の減少のため認定小規模食鳥処理場となる。
- 平成 5 年 10 月 27 日 : 沖縄県食肉衛生検査所北部支所が、沖縄県北部合同庁舎へ移転。
- 平成 6 年 4 月 1 日 : 沖縄県行政組織規則により沖縄県食肉衛生検査所を沖縄県中央食肉衛生検査所に、沖縄県食肉衛生検査所北部支所を沖縄県北部食肉衛生検査所として設置。北部食検が、検査第 1・2 課の 2 課制となる。
- 平成 7 年 9 月 29 日 : 沖縄県協同食肉(株)が廃止し、(株)沖縄県食肉センター名護分工場として発足。
- 平成 9 年 4 月 14 日 : 沖縄畜産工業(株)がと畜場を廃止し、同年 4 月 15 日中部食肉センター(株)に統合。
- 平成 9 年 5 月 17 日 : 沖縄畜産(株)が廃業。
- 平成 10 年 4 月 1 日 : (株)沖縄鶏卵食鳥流通センターが、食鳥検査対象の食鳥処理場となる。
- 平成 12 年 3 月 31 日 : (株)沖縄県食肉センター名護分工場の大動物処理施設廃止。
- 平成 13 年 2 月 27 日 : (株)真玉橋食肉センターが廃業。中央食検が、4 課制から 3 課制となる。
- 平成 13 年 2 月 28 日 : (株)沖縄県食肉センター名護分工場の小動物処理施設廃止。
- 平成 13 年 10 月 18 日 : 牛海綿状脳症 (BSE) 全頭検査開始。
- 平成 14 年 4 月 30 日 : (株)沖縄県食肉センターの山羊処理施設廃止。
- 平成 15 年 2 月 12 日 : (株)沖縄県食肉センターで新しい牛のとさつ解体処理施設が完成。
- 平成 15 年 4 月 1 日 : 名護市食肉センターが操業開始。中央食検の検査第 3 課が、精密検査課となる。
- 平成 15 年 4 月 30 日 : 中部食肉センター(株)が、と畜場を廃止。
- 平成 18 年 4 月 1 日 : 沖縄県行政組織規則により課制が班制となり、中央食検 3 班制、北部食検班制なしとなる。
- 平成 22 年 4 月 1 日 : 現在に至る。

2 食肉衛生検査所・とちく場・食鳥処理場の所在地



3 組織及び機構

平成22年4月1日現在
(平成18年度より班制となった。)



4 職員構成

平成22年4月1日現在

職 種	中央食肉衛生検査所					北部食肉衛生検査所
	計	所長	食鳥 検査班	食肉 検査班	精密 検査班	
所長(技術)	1	1				1
班長(技術)	3		1	1	1	
主幹(技術)	1		1			1
主査(事務)						
主任(事務)	2		2			1
主任技師(技術)	8		2	5	1	4
主任(技術)	9		1	6	2	3
技師(技術)	5			2	3	3
欠員	(3)			(3)		(2)
合 計	29(3)	1	7	14(3)	7	13(2)
嘱託職員	10		4	6		8

5 沖縄県行政組織規則（抜粋）

平成22年4月1日現在

第3章 出先機関

第1節 福祉保健部関係出先機関

第14款 食肉衛生検査所

（設置、名称、位置及び所管区域）

第169条 食肉衛生の向上を図るため、食肉衛生検査所を設置する。

2 食肉衛生検査所の名称、位置及び所管区域は、次のとおりとする。

名 称	位 置	所 管 区 域
沖縄県中央食肉衛生検査所	南城市	県一円（名護市、国頭郡、宮古島市、宮古郡、石垣市、八重山郡及び島尻郡のうち久米島町、伊平屋村及び伊是名村を除く。）
沖縄県北部食肉衛生検査所	名護市	名護市 国頭郡 島尻郡伊平屋村及び伊是名村

全部改正〔平成10年規則36号〕、一部改正〔平成14年規則20号・17年81号・100号・18年33号〕

（内部組織）

第170条 中央食肉衛生検査所の内部組織は、次のとおりとする。

名 称	内部組織
沖縄県中央食肉衛生検査所	食鳥検査班 食肉検査班 精密検査班

全部改正〔平成10年規則36号〕、一部改正〔平成15年規則26号・18年33号〕

（所掌事務）

第171条 食肉衛生検査所の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 獣畜のとさつ又は解体に関する検査及び食鳥の検査に関すること。
- (2) 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の検査及び試験研究に関すること。
- (3) と畜場及び食鳥処理場並びにその附属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- (4) 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- (5) 庶務に関すること。

全部改正〔平成10年規則36号〕

6 沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則

平成22年4月1日現在

第3条 知事は、別表第1及び別表第2の所長等の欄に掲げる所長等に委任事項の欄に掲げる事務を委任する。

別表第2（第3条、第5条関係）

食肉衛生検査所長

- 1 と畜場法第13条第1項第1号の規定に基づき、とさつの届出を受理すること。
- 2 と畜場法第13条第3項の規定に基づき、とさつ又は解体場所、肉、内臓等の取扱方法及び汚物の処理方法を指示すること。
- 3 と畜場法第14条第1項から第3項（同条第4項において準用する場合を含む。）までの規定に基づき、獣畜のとさつ又は解体の検査をすること。
- 4 と畜場法第16条の規定に基づき、公衆衛生上必要な措置をとること。
- 5 と畜場法第17条第1項の規定に基づき、必要な報告をさせ、又は措置の実施状況について立入検査をさせること。
- 5の2 と畜場法第18条第2項の規定に基づき、とさつ若しくは解体の業務の停止を命じ、又はとさつ若しくは解体を禁止すること。
- 6 と畜場法施行令第4条第2号の規定に基づき、とさつを許可すること。
- 7 食鳥処理法第9条の規定に基づき、食鳥処理場の整備改善、当該食鳥処理場の全部若しくは一部の使用の禁止又は当該食鳥処理の事業の全部若しくは一部の停止を命ずること。
- 8 食鳥処理法第12条第6項の規定に基づき、食鳥処理衛生管理者届又は食鳥処理衛生管理者変更届を受理すること。
- 9 食鳥処理法第13条の規定に基づき、食鳥処理衛生管理者の解任を命ずること。
- 10 食鳥処理法第15条第1項の規定に基づき、食鳥の生体検査を行うこと。
- 11 食鳥処理法第15条第2項の規定に基づき、食鳥の脱羽後検査を行うこと。
- 12 食鳥処理法第15条第3項の規定に基づき、食鳥の内臓摘出後検査を行うこと。
- 13 食鳥処理法第16条第6項の規定に基づき、食鳥処理衛生管理者の解任を命ずること。
- 14 食鳥処理法第16条第7項の規定に基づき、確認状況報告を受理すること。
- 14の2 食鳥処理法第16条第9項の規定に基づき、認定小規模食鳥処理業者に対し、技術的な指導及び助言を行うこと。
- 15 食鳥処理法第17条第4号の規定に基づき、届出食肉販売業届を受理すること。
- 16 食鳥処理法第20条の規定に基づき、公衆衛生上必要な措置を採ること。
- 17 食鳥処理法第37条第1項の規定に基づき、食鳥処理業者等から業務の状況に関し報告を徴収すること。
- 18 食鳥処理法第38条第1項の規定に基づき、食鳥処理場等の施設に立ち入り、設備等を検査し、関係者に質問し、食鳥と体等の一部を収去すること。
- 19 食品衛生法第28条第1項の規定に基づき、営業を行う者その他の関係者から必要な報告を求め、又は営業の場所等について臨検検査させ、又は食品等を収去させること。（と畜場内における食肉及び食鳥処理場内における食鳥肉に係るものに限る。）
- 20 食品衛生法第54条の規定に基づき食品、添加物、器具又は容器包装の廃棄その他食品衛生上の危害を防止するための必要な処置をとることを命ずること。（と畜場内における食肉及び食鳥処理場内における食鳥肉に係るものに限る。）

7 事務分掌

平成22年4月1日現在

中央食肉衛生検査所

食鳥検査班

- 1 庶務、会計及び職員の福利に関すること。
- 2 庁舎管理及び財産（物品）に関すること。
- 3 と畜検査及び食鳥検査業務の企画調整に関すること。
- 4 獣畜のとさつ又は解体に関する検査及び食鳥の検査に関すること。
- 5 と畜検査及び食鳥検査の衛生統計、情報処理、事業文書処理に関すること。
- 6 食鳥処理場並びにその附属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- 7 伝達性海綿状脳症の試験研究に関すること。
- 8 食鳥処理場の変更届等の事務に関すること。
- 9 食鳥処理場の排水に関すること。
- 10 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 11 と畜検査及び食鳥検査の技術研修に関すること。
- 12 その他、他班に属さない事務に関すること。

食肉検査班

- 1 獣畜のとさつ又は解体に関する検査に関すること。
- 2 と畜場並びにその附属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- 3 と畜場の排水に関すること。
- 4 人獣共通感染症の調査に関すること。
- 5 食肉衛生に関すること。
- 6 衛生指導教育に関すること。
- 7 伝達性海綿状脳症(TSE)の検査に関すること。
- 8 と畜場の変更届に関すること。
- 9 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 10 その他、班に関係する業務に関すること。

精密検査班

- 1 伝達性海綿状脳症(TSE)の検査に関すること。
- 2 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の精密検査に関すること。
- 3 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の試験研究に関すること。
- 4 と畜検査の衛生統計、情報処理、事業文書処理に関すること。
- 5 試験検査の精度管理に関すること。
- 6 衛生指導教育に関すること
- 7 食肉衛生に関すること。
- 8 獣畜のとさつ又は解体に関する検査及び食鳥の検査に関すること。
- 9 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 10 その他、班に関係する業務に関すること。

北部食肉衛生検査所

- 1 庶務、会計及び職員の福利に関すること。
- 2 庁舎管理(所管轄区域に限る)及び財産(物品)に関すること。
- 3 関係機関及び関係団体等との連絡調整に関すること。
- 4 と畜検査及び食鳥検査の衛生統計・情報処理、業務文書処理に関すること。
- 5 と畜検査、食鳥検査業務の企画調整に関すること。
- 6 と畜場及び食鳥処理場の変更届等の事務に関すること。
- 7 獣畜のとさつ又は解体に関する検査及び食鳥の検査に関すること。
- 8 と畜検査及び食鳥検査の技術研修に関すること。
- 9 伝達性海綿状脳症(TSE)検査に関すること。
- 10 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の精密検査に関すること。
- 11 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の試験研究に関すること。
- 12 人獣共通感染症の調査に関すること。
- 13 と畜場及び食鳥処理場並びにその付属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- 14 衛生指導教育に関すること。
- 15 認定小規模食鳥処理場の立入検査及び衛生指導に関すること。
- 16 と畜場及び食鳥処理場の排水に関すること。
- 17 その他、食肉衛生業務に関すること。

8 歳入・歳出決算書

(1) 歳入

(単位：円)

科 目	区 分	前年度決算額	決算額	備 考	
				中央	北部
と畜検査 手数料	中央食検	61,743,300	68,723,100	牛 2,411 頭	141 頭
	北部食検	36,647,400	38,523,100	とく 4 頭	2 頭
	計	98,390,700	107,246,200	馬 49 頭	
				豚 224,153 頭	127,675 頭
				山羊・めん羊	680 頭
食鳥検査 手数料	中央食検	7,685,689	7,606,604	ブロイラー等 (平日)	
	北部食検	4,979,168	4,571,821	中央 3 円×1,592,880 羽	北部 3 円× 909,215 羽
	計	12,664,857	12,178,425	(休日及び時間外)	
				中央 4 円×706,991 羽	北部 4 円×461,044 羽
証明手数料	中央食検	380,520	343,770	証明	2 1 0 円×1,637 件
	北部食検	630	0		2 1 0 円× 0 件
合計		111,436,707	119,768,395		

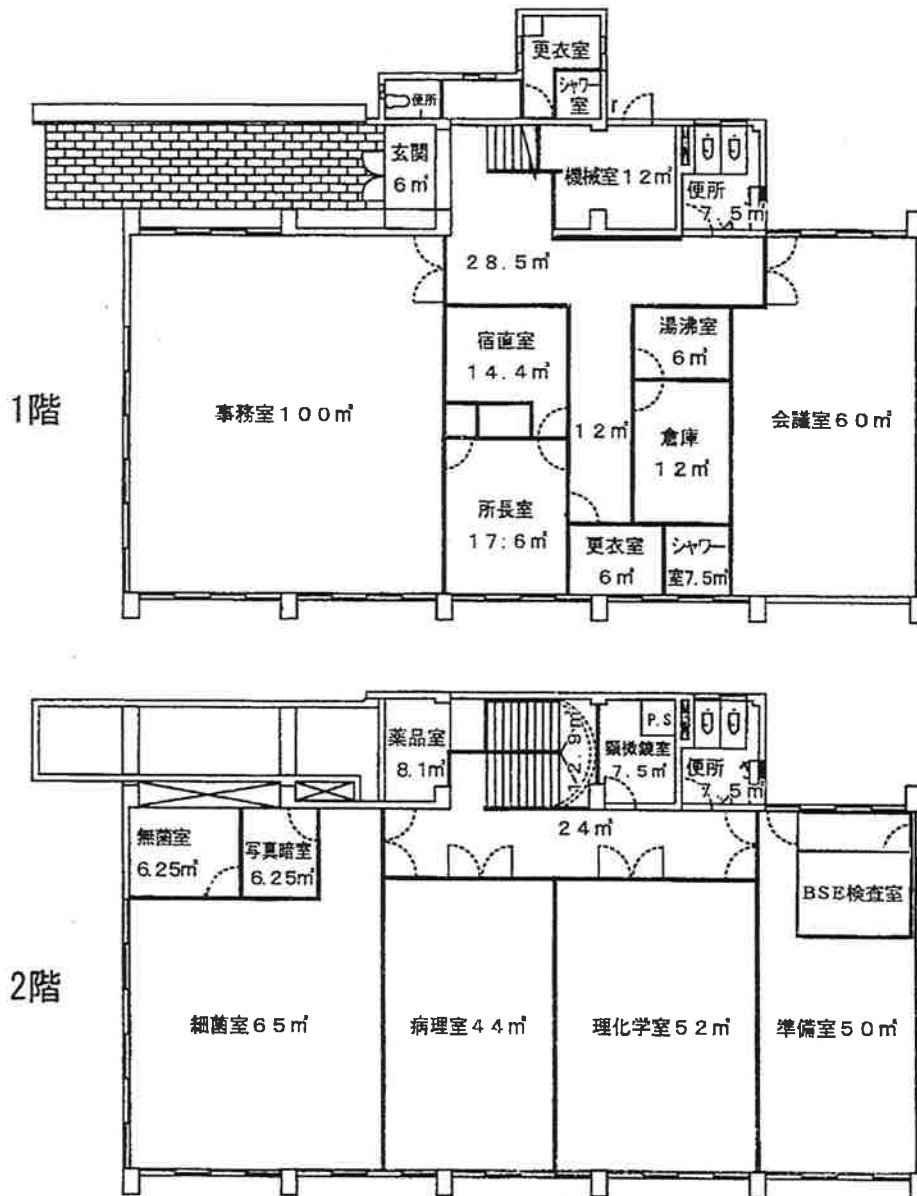
(2) 歳出

(単位：円)

科 目	中央食検		北部食検	
	令達予算額	決算額	令達予算額	決算額
食品衛生指導費				
報 酬	18,876,100	18,876,100	13,196,500	13,196,500
共 済 費	1,263,547	1,263,547	479,832	479,832
報 償 費	32,000	32,000	0	0
旅 費	4,522,940	4,522,940	2,509,680	2,509,680
需 用 費	16,867,445	16,867,445	3,844,396	3,844,396
役 務 費	4,592,271	4,592,271	2,158,329	2,158,329
委 託 料	3,337,680	3,337,680	35,822	35,822
使用料及び賃借料	4,052,570	4,052,570	2,626,990	2,626,990
備品購入費	3,456,960	3,456,960	1,169,463	1,169,463
負担金、補助及び交付金	100,500	100,500	56,000	56,000
公課費	37,800	37,800	37,800	37,800
計	57,139,813	57,139,813	26,114,812	26,114,812

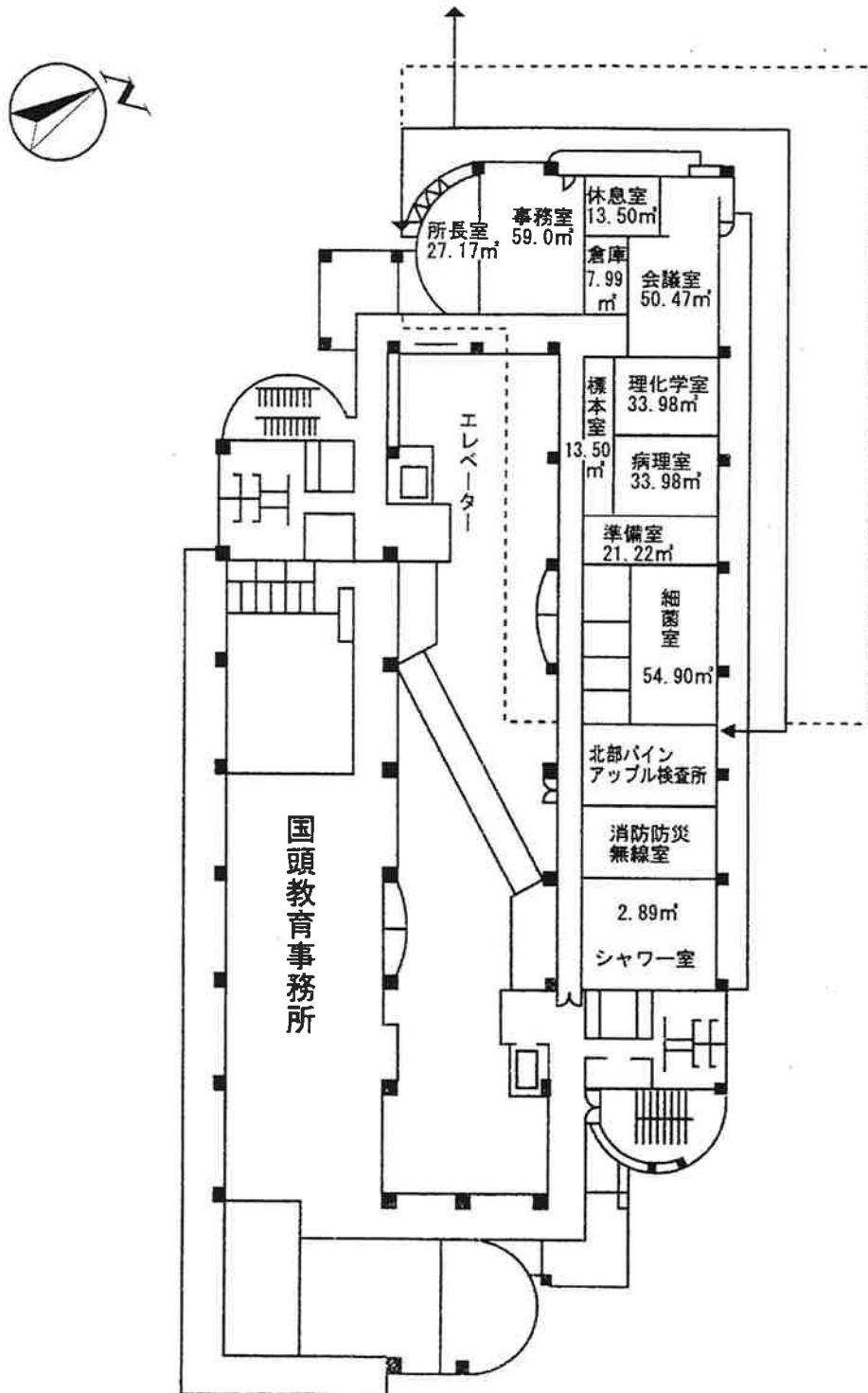
9 検査所庁舎の平面図

(1) 中央食肉衛生検査所



敷地面積	約3,853㎡
規模及び構造	本館鉄筋コンクリート造2階 585.88㎡
建設経費	総工費 83,350,000円
開設年月日	昭和54年3月29日
竣工年月日	昭和54年3月

(2) 北部食肉衛生検査所 (北部合同庁舎5階)



10 主な検査機械器具(備品)

1. 中央食肉衛生検査所

(1)微生物関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	遠心分離器	2	19	培養器(冷凍機付き)	1
2	光学顕微鏡	2	20	低温恒温器	1
3	暗視野顕微鏡	1	21	インキュベーター	3
4	実体顕微鏡	1	22	フリーザー	1
5	製氷機	1	23	ストマッカー	2
6	電気低温乾燥機	1	24	脱気装置	1
7	デジタルカメラ	1	25	オートダイリュウター	1
8	コロニーカウンター	1	26	プレートミキサー	1
9	ウォーターバス	1	27	ダイナルサンプルミキサー	2
10	電気低温恒温槽	1	28	ヴァックエルートVシステム	1
11	超低温槽	1	29	オートドロッパー	1
12	電子天秤	3	30	高圧蒸気滅菌器	3
13	自動細菌同定装置(ミニアピ)	1	31	温度コレクタ	2
14	サーマルサイクラー	2	32	バイオハザード対策用セーフティキャビネット	1
15	電気泳動装置	1	33	純水・超純水製造装置	1
16	冷却遠心器	1	34	蒸留器	1
17	マイクロ冷却遠心器	2	35	低温培養器	1
18	クリーンベンチ	1	36	Maxi Mixi II	1

(2) 病理関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	蛍光顕微鏡	2	11	パラフィン溶融器	1
2	光学顕微鏡	1	12	パラフィン伸展器	2
3	ディスカッション顕微鏡	1	13	ブロックヒーター	1
4	実体顕微鏡	1	14	ロータリーマイクローム	1
5	透過性ノルマンスキ式微分干渉顕微鏡	1	15	組織固定用振とう器	1
6	顕微鏡デジタルカメラ	1	16	カメラ	1
7	顕微鏡写真撮影装置	1	17	デジタルカメラ	1
8	医用写真撮影装置	1	18	SL写真撮影装置	1
9	完全密閉式包埋装置	1	19	ドラフトチャンバー	1
10	パラフィン包埋ブロック作成装置	1			

(3) 理化学関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	自動乾熱滅菌器	1	14	低温回転恒温培養器	1
2	赤外線水分計	1	15	インキュベーター	1
3	分光光度計	1	16	フリーザー	1
4	光電光度計	1	17	超音波洗浄機	1
5	卓上蛋白計	1	18	超音波ピペット洗浄機	1
6	ホモジナイザー	3	19	ピペット洗浄乾燥機	1
7	ポータブルアスピレーター	4	20	バーチカルシェーカー	1
8	ウォーターバス	1	21	ロータリーエボパレーター	5
9	電子天秤	1	22	マイクロチューブポンプ	1
10	真空ポンプ	1	23	マルチスキャンビクロマティック	1
11	スポットケム	1	24	冷却水循環装置	2
12	高速クロマトグラフ	1	25	外部記録装置	1
13	恒温震盪培養器	1	26	高速振とう機	1
14	血球分類計算機	2	27	ポータブル残留塩素計	3

(4) TSE関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	冷却遠心器	1	4	マイクロプレートウォッシャー	1
2	高速冷却遠心器	1	5	多検体細胞破碎機マルチピースショーカー	1
3	マイクロプレートリーダー	1	6	バイオハザード対策用セーフティキャビネット	1

主な検査機械器具(備品)

2. 北部食肉衛生検査所

(1) 微生物関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	顕微鏡	3	11	電気泳動槽	2
2	実体顕微鏡	2	12	自動細菌同定装置	1
3	恒温培養器	5	13	乾熱滅菌器	1
4	恒温槽	2	14	高圧蒸気滅菌器	3
5	コロニーカウンター	2	15	電子天秤	3
6	遠心分離器	4	16	混合器	6
7	クリーンベンチ	1	17	真空ポンプ	1
8	ゲル撮影装置	1	18	試料採取・計量器	9
9	トランスイルミネーター	1	19	冷凍・冷蔵庫	3
10	サーマルサイクラー	1			

(2) 病理関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	顕微鏡	1	8	パラフィン溶融器	1
2	ディスカッション顕微鏡	1	9	パラフィンブロック作成装置	1
3	蛍光顕微鏡	2	10	パラフィン伸展器	3
4	顕微鏡写真撮影装置	2	11	薄切器	2
5	顕微鏡用デジタルカメラ操作	1	12	混合器	3
6	冷光照明システム	1	13	換気装置	2
7	包埋装置	1	14	臓器写真撮影装置	1

(3) 理化学関係

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	血液化学自動分析機	1	6	混合器	1
2	遠心分離器	1	7	標準比重計	1
3	全自動血球計数器	1	8	ホモジナイザー	1
4	恒温培養器	1	9	高速クロマトグラフ	1
5	pH計	3	10	冷凍・冷蔵庫	4

(4) 共用

No.	品名	数量	No.	品名	数量
1	デジタルカメラ	4	4	製氷機	1
2	写真機	2	5	純水製造装置	1
3	照度計	2	6	砕氷器	1

第2章 検査事業の概要

I と畜検査業務の概要

1 と畜検査頭数

平成 21 年度、中央・北部両検査所における総検査頭数は 355,144 頭であった。なお、平成 20 年度より 9 % (29,545 頭) の増加であった。

畜種別では牛 2,583 頭、とく 4 頭、馬 49 頭、豚 351,828 頭、山羊 677 頭、めん羊 3 頭であった。

病畜として搬入された獣畜は 1,032 頭(総検査頭数の 0.29%)で、牛 177 頭、山羊 4 頭、豚 850 頭、めん羊 1 頭であった。

2 と畜検査結果に基づく措置

とさつ禁止または全部廃棄の措置をした総数は 488 頭であった。なお、平成 20 年度より 6.09%(28 頭)の増加であった。

(1) とさつ禁止

とさつ禁止頭数は 33 頭で牛 3 頭、豚 30 頭であった。

(2) 全部廃棄

全部廃棄頭数は 455 頭で牛 21 頭、豚 434 頭であった。主な疾病は、豚丹毒 172 頭、サルモネラ症 85 頭、トキソプラズマ病 82 頭、膿毒症 34 頭、敗血症 29 頭、腫瘍 24 頭、住肉胞子虫症 17 頭であった。

(3) 一部廃棄

一部廃棄実頭数は 232,394 頭で、牛 1,385 頭、馬 17 頭、豚 230,666 頭、山羊 324 頭、めん羊 2 頭であった。

3 と畜場の衛生指導・衛生教育

(1) と畜場の衛生指導

と畜場法第 6 条を適正に実施するために、と畜場及び付属施設の衛生保持や設備改善、維持管理等に関して助言、指導を実施した。

(2) と畜場関係者の衛生教育

と畜場法及び関係法規、人獣共通感染症、と畜場の衛生管理、食肉の衛生管理等について定期的に講習会を開催した。

4 検査結果の還元

家畜保健衛生所および畜産農家からの要請により検査データを還元し、疾病対策に役立っている。

1 と畜検査頭数及び獣畜のと殺禁止又は廃棄したものの原因（中央）

	検査頭数	処分内容	処分実頭数	細菌性			原虫病		寄生虫病		その他の疾病						合計			
				豚丹毒	サルモネラ症	その他	トキソプラズマ病	その他	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	黄疽	水腫	腫瘍	炎症又は炎症産物による汚染		変性又は萎縮	その他	
合計	226648	禁止	26	22													3	26		
		全部廃棄	295	156	46	27	16			10	17	2	1	16			4		295	
		一部廃棄	127255						17	314				12	15	122889	1739	9558	134544	
牛	2442	禁止	2									1						1	2	
		全部廃棄	19							1	4	1	1	12						19
		一部廃棄	1285			2			17	313				4		720	104	557	1717	
とく	4	禁止	0																0	
		全部廃棄	0																	0
		一部廃棄	1							1										1
馬	49	禁止	0																0	
		全部廃棄	0																	0
		一部廃棄	17													14		4	18	
豚	224153	禁止	24	22														2	24	
		全部廃棄	276	156	46	27	16			9	13	1		4			4		276	
		一部廃棄	125952											8	15	122155	1635	8997	132810	
山羊	0	禁止	0																0	
		全部廃棄	0																	0
		一部廃棄	0																	0

と畜検査頭数及び獣畜のと殺禁止又は廃棄したもの原因（北部）

検査頭数	処分内容	処分実頭数	細菌性			原虫病		寄生虫病		その他の疾病							合計	
			豚丹毒	サルモネラ症	その他	トキソプラズマ病	その他	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	黄疸	水腫	腫瘍	炎症又は炎症産物による汚染	変性又は萎縮		その他
合計 128,496	禁止	7	3						1								3	7
	全部 廃棄	160	16	39	55	1			24	12		8			3	2	160	
	一部 廃棄	105,140						1	67			4	3	104,180	538	4,240	109,033	
牛 141	禁止	1															1	1
	全部 廃棄	2													1	1	2	
	一部 廃棄	100							31					75	8	38	152	
めん羊 3	禁止	0																0
	全部 廃棄	0																0
	一部 廃棄	2												2			2	
豚 127,675	禁止	6	3						1								2	6
	全部 廃棄	158	16	39	55	1			24	12		8			2	1	158	
	一部 廃棄	104,714										4	3	103,800	526	4189	108,522	
山羊 677	禁止	0																0
	全部 廃棄	0																0
	一部 廃棄	324						1	36					303	4	13	357	

2 月別と畜検査頭数

		合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総計	合計	355,144	30,800	27,046	28,922	28,896	29,967	25,174	30,269	29,955	35,255	28,453	28,857	31,550
	牛(とくを含む)	2,587	248	205	183	232	187	179	204	235	279	197	235	203
	馬	49	6	3	3	4	7	2	2	4	5	3	3	7
	豚	351,828	30,456	26,786	28,673	28,600	29,728	24,947	29,994	29,671	34,921	28,199	28,574	31,279
	山羊(めん羊を含む)	680	90	52	63	60	45	46	69	45	50	54	45	61
中央	合計	226,648	19,596	17,265	18,485	18,157	19,772	15,793	19,295	19,010	23,153	17,492	18,397	20,233
	牛(とくを含む)	2,446	232	196	170	215	173	171	195	223	259	191	225	196
	馬	49	6	3	3	4	7	2	2	4	5	3	3	7
	豚	224,153	19,358	17,066	18,312	17,938	19,592	15,620	19,098	18,783	22,889	17,298	18,169	20,030
	山羊	0												
北部	合計	128,496	11,204	9,781	10,437	10,739	10,195	9,381	10,974	10,945	12,102	10,961	10,460	11,317
	牛(とくを含む)	141	16	9	13	17	14	8	9	12	20	6	10	7
	馬	0												
	豚	127,675	11,098	9,720	10,361	10,662	10,136	9,327	10,896	10,888	12,032	10,901	10,405	11,249
	山羊(めん羊を含む)	680	90	52	63	60	45	46	69	45	50	54	45	61

3 月別とさつ禁止頭数

病名		畜種	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総計	合計		33	3	4	8	6	2	1	1	3	0	1	0	4	
	豚丹毒	豚	25	3	3	7	4	0	0	1	3	0	1	0	3	
	膿毒症	牛	0													
		豚	1		1											
	黄疸	牛	1													1
		豚	0													
		馬	0													
	熱性嗜症	牛	2			1		1								
		豚	4				2	1	1							
	中央	合計		26	3	2	7	5	0	1	1	3	0	0	0	4
豚丹毒		豚	22	3	2	6	4			1	3				3	
膿毒症		牛	0													
		豚	0													
黄疸		牛	1													1
		豚	0													
		馬	0													
尿毒症		牛	0													
熱性嗜症		牛	1			1										
		豚	2				1		1							
北部	合計		7	0	2	1	1	2	0	0	0	0	1	0	0	
	豚丹毒	豚	3		1	1								1		
	膿毒症	牛	0													
		豚	1		1											
	熱性嗜症	牛	1						1							
		豚	2					1	1							

4 月別全部廃棄頭数(中央)

疾病名	畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計		295	22	43	40	29	26	16	33	16	15	13	26	16
豚丹毒	豚	156	16	32	28	17	19	9	17	3	7	2	1	5
(じん麻疹型)		20	3	2	13									2
(関節炎型)		122	11	27	14	14	17	7	16	3	7	2	1	3
(心内膜炎型)		14	2	3	1	3	2	2	1					
トキソプラズマ病	豚	27		1	2	1		1	6	3		4	7	2
サルモネラ症	豚	46	3	3	6	3	2	1		5	4	5	10	4
住肉孢子虫症	豚	16		1	1	3			5	2	1		1	2
膿毒症	牛	1				1								
	馬	0												
	豚	9	2	3	1				1				1	1
	山羊	0												
敗血症	牛	4				1				2			1	
	馬	0												
	豚	13	1	2	2	1	2	2				1	1	1
	山羊	0												
尿毒症	牛	0												
	馬	0												
	豚	0												
	山羊	0												
黄疸	牛	1									1			
	馬	0												
	豚	1							1					
	山羊	0												
腫瘍	牛	12		1		1	1	1	3	1	1	1	2	
	馬	0												
	豚	4						1	1				2	
	山羊	0												
白血病	牛	0												
	馬	0												
	豚	0												
	山羊	0												
変性	牛	0												
	馬	0												
	豚	4				1	1	1						1
	山羊	0												
水腫	牛	1									1			
	馬	0												
	豚	0												
豚赤痢	豚	0												

月別全部廃棄頭数(北部)

疾病名	畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計		160	3	8	21	19	14	4	13	12	2	38	15	11
豚丹毒	豚	16	0	2	2	3	1	1	1	1	0	3	2	0
(じん麻疹型)		4										2	2	
(関節炎型)		12		2	2	3	1	1	1	1		1		
(心内膜炎型)		0												
トキソプラズマ病	豚	55			4	6	1		7	5		28	4	
サルモネラ症	豚	39	2	2	12	3	3	2	1	2		2	5	5
住肉孢子虫症	豚	1											1	
膿毒症	牛	0												
	馬	0												
	豚	24	1	3	2	1	4		4	3	1	3	1	1
	山羊	0												
敗血症	牛	0												
	馬	0												
	豚	12				4	3	1			1		1	2
	山羊	0												
腫瘍	牛	0												
	馬	0												
	豚	8		1			2					1	1	3
	山羊	0												
白血病	牛	1			1									
	馬	0												
	豚	1				1								
	山羊	0												
変性	牛	1										1		
	馬	0												
	豚	2				1				1				
	山羊	0												

5 畜種別の一部廃棄数 (中央)

疾病名	牛	馬	豚	山羊
呼吸器系	258	4	72,117	0
肺	S E P 型肺炎		27,079	
	ヘモフィルス型肺炎		1,665	
	胸膜炎型肺炎	89		30,997
	膿瘍型肺炎	8	1	2,639
	その他型肺炎	94	2	9,727
肺気腫	67	1	10	
鼻	萎縮性鼻炎			
循環器系	55	0	19,191	0
心	心外膜炎	46		18,609
	心内膜炎			
	創傷性心膜炎			
	心臓筋炎			12
脾	脾臓炎	6		101
	脾臓膿瘍	2		6
	脾臓腫瘍			20
脾臓出血			29	
リンパ	リンパ節膿瘍	1		322
	リンパ管炎			92
消化器系	795	12	92,844	0
舌	舌放線菌症			
胃	胃炎	14		27
	胃潰瘍			
腸	小腸炎	20		295
	大腸炎	38	2	5,665
	出血性大腸炎			6,397
	腹膜炎	2		11,451
	腹腔膿瘍			55
	腸気泡症			31
P I A 症候群			31	
脾	脾臓腫瘍	2		3
肝	間質炎型肝炎			20,604
	包膜炎型肝炎	113	1	18,598
	膿瘍型肝炎	60	1	62
	肝硬変型肝炎			321
	胆管炎型肝炎	33	1	
	寄生虫性間質性肝炎			16,503
	肝線維症			
	その他の肝炎	166	5	8,060
	屑肝	36		
	産褥肝	2		
	富脈肝	161		
	着色肝	31		1,475
	砂粒肝		2	
混濁肝			3,098	
胆出血症	117		168	
胆石症				

疾病名	牛	馬	豚	山羊
その他	68	0	1,424	0
結核病	リンパ節限局型			
	肺病巣型			
	その他型			
抗酸菌症	リンパ節限局型			1,418
	肝病巣型			2
	その他型			4
炎症による汚染				
脂肪壊死	68			
泌尿生殖器系	376	2	9,186	0
腎	出血型腎炎	5		124
	膿瘍型腎炎			32
	硬化型腎炎			362
	ターキーエッグ型腎炎			64
	腎盂炎型腎炎			28
	その他型腎炎	201	1	3,093
	腎盂拡張	1		538
	萎縮腎			147
	嚢胞腎	169	1	4,157
	腎結石			641
子宮	子宮蓄膿症			
	卵巣嚢腫			
乳房	乳房炎			
運動器	91	1	2,581	0
耳	耳介異常			579
	耳介炎			
筋	筋肉膿瘍	12	1	1,055
	外傷性筋出血	4		270
	筋肉変性	5		5
	筋肉水腫	2		5
	頭部膿瘍	1		12
	メラノージス			8
	横隔膜炎	33		
	横隔膜膿瘍	31		
骨	骨膿瘍	1		43
	関節炎			569
	骨折			35
	脱臼			
放線菌病	2			

寄生虫病・原虫病	牛	馬	豚	山羊
肺虫症	329	0	0	0
肝蛭症	17			
脾蛭症	312			
住肉胞子虫				
その他				
腫瘍	0	0	15	0
黒色腫			4	
腎芽腫			11	
子宮平滑筋腫				
その他				

	牛	馬	豚	山羊
合計	1,972	19	197,358	0
(実頭数)	1,285	17	125,952	0

畜種別の一部廃棄数 (北部)

疾病名	牛	めん羊	豚	山羊
呼吸器系	20	0	78,436	163
肺	S E P 型肺炎		24,173	
	ヘモフィルス型肺炎		648	
	胸膜炎型肺炎	11	21,185	55
	膿瘍型肺炎	3	910	8
	その他型肺炎	6	31,515	100
肺気腫		5		
循環器系	14	1	11,147	36
心	心外膜炎	3	11,009	32
	心内膜炎		2	
	創傷性心膜炎			
	心臓膿瘍		1	
心筋炎	2		1	
脾	脾炎	8	71	
	脾臓膿瘍		2	2
	巨脾症		10	
脾うっ血	1	31		
リンパ	躯幹リンパ節膿瘍		1	1
	内臓リンパ節膿瘍		20	
消化器系	68	2	82,649	149
舌	舌放線菌症			
胃	胃炎	2	12	1
	胃潰瘍	1		
腸	小腸炎	2	1,217	11
	大腸炎	3	16,399	5
	出血性大腸炎		925	1
	腹膜炎	2	7,377	4
	腹腔膿瘍		13	
	腸気泡症		26	
P I A 症候群		6		
脾	脾水腫			
肝	間質炎型肝炎	2	21,582	12
	包膜炎型肝炎	21	12,563	31
	膿瘍型肝炎	8	28	17
	肝硬変型肝炎		143	
	胆管炎型肝炎	2		1
	寄生虫性間質性肝炎		14,287	
	肝線維症			1
	その他の肝炎	8	7,476	55
	鋸屑肝	1		
	産褥肝			
	肝富脈斑	14		
	着色肝		387	3
	砂濁肝		181	
	肝出血症	2	27	6
胆石症			1	

疾病名	牛	めん羊	豚	山羊	
その他	7	0	774	0	
結核病	リンパ節局限型				
	肺病巣型				
抗酸菌症	その他型				
	リンパ節局限型		768		
炎症による汚染	肝病巣型		5		
	その他型				
脂肪壊死	7		1		
泌尿生殖器系	43	1	10,735	98	
腎	出血型腎炎	1	91	3	
	膿瘍型腎炎	2	19	4	
	硬化型腎炎		94		
	ターキーエッグ型腎炎		13		
	腎盂炎型腎炎		2	1	
	その他型腎炎	20	1	6,651	85
	腎盂拡張		123		
	萎縮腎		127		
	嚢胞腎	17		3,331	1
	腎結石				3
	腎梗塞	2		284	1
子宮	子宮蓄膿症				
	卵巣膿瘍	1			
乳房	乳房炎				
運動器	10	0	3,286	28	
耳	耳介異常		1,405	1	
	筋肉膿瘍		1,505	14	
	外傷性筋出血		143		
	筋肉変性	1		1	
	筋肉水腫		4		
	筋頭部膿瘍	1	11	7	
	メラノーシス		11		
	横隔膜炎	6		3	
	横隔膜膿瘍	1		2	
	骨膿瘍	1	96		
骨	関節炎		83		
	骨折		28		
	脱臼				
放線菌病					
寄生虫・原虫病	31	0	0	37	
肺	虫症			1	
	肝蛭症			36	
	脾住肉胞子虫	31			
	その他の				
腫瘍	0	0	3	0	
黒色腫	腎芽腫		1		
	子宮平滑筋腫		2		
	その他				

	牛	めん羊	豚	山羊
合計	193	4	187,030	511
(実頭数)	100	2	104,714	324

6 病畜の主要疾病内訳（中央）

区分	病名	畜種						計	
		牛				馬	豚		山羊
		肉牛	乳牛	とく	その他				
合計		41	128	0	2	0	239	0	410
循環器系	創傷性心嚢炎								0
	肺炎								0
消化器系	第四胃変位		3						3
	第四胃潰瘍								0
	肝炎	1							1
	鼓張症	1							1
	腹膜炎	1							1
泌尿器 生殖器	フレグモーネ		2						2
	脱肛						5		5
	尿石症								0
	子宮炎								0
	子宮脱						1		1
	膣脱		1						1
	乳房炎		2						2
乳頭炎								0	
神経系	腰痠	2	9						11
	神経麻痺	1	3						4
皮膚	皮膚炎								0
運動器系	関節周囲炎								0
	関節炎		27				1		28
	亜脱臼	2	3						5
	脱臼	8	16		1		3		28
	起立困難		1		1		86		88
	起立不能	4	10				137		151
	産後起立不能		5						5
	褥瘡		1						1
	挫創・挫傷								0
	切創								0
	筋断裂	6	28						34
	蹄病	1	6						7
	跛行		2				1		3
骨折								0	
全身性	化膿症								0
	難産		1						1
	熱射病	2	1						3
	妊娠中毒症								0
その他	膿瘍						3		3
	ヘルニア	1							1
	ビタミン欠乏症								0
	脂肪壊死								0
	腫瘍								0
	尾咬傷								0
	不明								0
	その他	11	7				2		20

病畜の主要疾病内訳（北部）

区分	病名	畜種						計	
		牛				めん羊	豚		山羊
		肉牛	乳牛	とく	その他				
合計		6	0	0	0	1	611	4	622
循環器系	創傷性心嚢炎								0
	後大静脈血栓症								0
消化器系	鼓張症								0
	第四胃変位								0
	腹膜炎								0
	脱肛						4		4
泌尿器 生殖器	フレグモーネ								0
	尿閉								0
	尿石症								0
	子宮炎								0
	子宮脱						2		2
	膣脱							1	1
	乳房炎								0
	乳頭炎								0
神経系	腰痠						1		1
	神経麻痺								0
皮膚	皮膚炎								0
運動器系	関節周囲炎								0
	関節炎						67		67
	亜脱臼								0
	脱臼	1					1		2
	起立困難	1					20		21
	起立不能	1					87	3	91
	産後起立不能	1				1			2
	褥瘡								0
	挫創・挫傷						1		1
	切創						5		5
	筋断裂								0
	蹄病						1		1
	跛行						45		45
	骨折						11		11
全身性	化膿症						1		1
	難産	1							1
	熱射病								0
	妊娠中毒症								0
その他	膿瘍						333		333
	ヘルニア						1		1
	ビタミン欠乏症								0
	脂肪壊死								0
	腫瘍								0
	尾咬傷						3		3
	黄疸								0
	その他	1					28		29

7 10年間のと畜検査頭数

		計	平成									
			12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
総計	合計	3,635,612	437,223	421,631	389,670	371,963	356,609	324,666	327,401	325,706	325,599	355,144
	牛	27,531	4,610	3,475	1,857	2,574	2,566	2,489	2,460	2,305	2,612	2,583
	とく	13	0	2	0	2	1	0	1	0	3	4
	馬	1,234	145	181	121	183	206	140	85	64	60	49
	こま	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	豚	3,595,232	429,301	415,715	386,566	368,395	353,075	321,251	324,193	322,710	322,198	351,828
	山羊	11,594	3,167	2,258	1,124	809	761	783	662	627	726	677
	めん羊	7	0	0	1	0	0	3	0	0	0	3
中央食検	合計	2,874,524	409,537	421,631	389,670	291,504	266,384	229,483	222,995	213,364	203,308	226,648
	牛	27,006	4,610	3,475	1,857	2,532	2,509	2,442	2,403	2,233	2,503	2,442
	とく	11	0	2	0	2	1	0	1	0	1	4
	馬	1,234	145	181	121	183	206	140	85	64	60	49
	こま	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	豚	2,840,193	402,175	415,715	386,566	288,698	263,668	226,901	220,506	211,067	200,744	224,153
	山羊	6,078	2,607	2,258	1,124	89	0	0	0	0	0	0
	めん羊	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
北部食検	合計	761,088	27,686	0	0	80,459	90,225	95,183	104,406	112,342	122,291	128,496
	牛	525	0	0	0	42	57	47	57	72	109	141
	とく	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
	馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こま	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	豚	755,039	27,126	0	0	79,697	89,407	94,350	103,687	111,643	121,454	127,675
	山羊	5,516	550	0	0	720	761	783	662	627	726	677
	めん羊	6	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

8 10年間のとさつ禁止頭数

疾病名	畜種	計	平成									
			12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	牛	35	5	7	3	3	7	2	3	2	0	3
	豚	337	60	61	49	24	46	17	15	17	18	30
	山羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豚丹毒	豚	202	24	28	24	15	39	11	10	13	13	25
尿毒症	牛	1							1			
膿毒症	牛	2		2								
	豚	73	18	24	21	5	1	2	1			1
	山羊	0										
敗血症	牛	0										
	豚	2	1	1								
	山羊	0										
黄疸	牛	5			1	1	1	1				1
熱性諸症	牛	6							2	2		2
	豚	16							4	4	4	4
その他	牛	21	5	5	2	2	6	1				
	豚	44	17	8	4	4	6	4			1	
	山羊	0										

9 10年間の全部廃棄頭数

疾 病 名	畜種	計	平成									
			12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
疾 病 名	牛	116	15	10	9	6	8	13	10	9	15	21
	豚	3,517	287	256	224	342	608	244	397	293	432	434
	山羊	10	2	2	2	0	0	3	1	0	0	0
	馬	8	1	1	0	2	3	0	0	1	0	0
豚 丹 毒	豚	893	129	73	69	56	86	63	59	99	87	172
トキソプラズマ病	豚	517	27	87	39	33	58	17	46	50	78	82
サルモネラ症	豚	248									163	85
住肉孢子虫症	豚	158	23	15	15	34	23	6	6	6	13	17
豚 赤 痢	豚	258					178	37	14	27	2	
膿 毒 症	牛	6		4					1			1
	豚	333	54	40	45	37	24	24	29	20	27	33
	山羊	5	1					3	1			
	馬	0										
敗 血 症	牛	27	9	2	2		3	1	4		2	4
	豚	926	37	22	33	154	226	85	230	73	41	25
	山羊	3		1	2							
尿 毒 症	牛	3			1	2						
	豚	2	2									
	山羊	0										
黄 疸	牛	6			1	1		1			2	1
	豚	44	4	5	9	9	4	2	3	4	3	1
	山羊	0										
腫 瘍	牛	32	1	1		1	1	4	4	3	5	12
	豚	45	4	3	3	5	3	4	4	2	5	12
	山羊	0										
	馬	8	1	1		2	3			1		
白 血 病	牛	21			2		3	7	1	4	3	1
	豚	6		2	2			1				1
変 性	牛	12	3	2	1	1				2	2	1
	豚	83	7	8	9	13	5	4	6	12	13	6
	山羊	1		1								
水 腫	牛	9	2	1	2	1	1				1	1
	豚	4		1		1	1	1				
	山羊	1	1									

10 と畜場別の開場日数および検査延べ人員

検査延べ人員	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
		6,538	598	538	576	571	573	495	537	495	579	506	504	566
沖縄県食肉センター	開場日数	246	21	18	21	22	22	19	21	19	23	19	19	22
	検査員数	4,006	358	333	355	361	357	300	327	307	362	302	306	338
名護市食肉センター	開場日数	246	22	20	21	22	21	19	21	19	21	19	19	22
	検査員数	2,532	240	205	221	210	216	195	210	188	217	204	198	228

11 と畜場の衛生講習会

	開催月日	対象	人数	内容
沖縄県食肉センター	2009年8月22日	沖縄県食肉センター 沖縄化製工業 協進食品	50名	新と畜場の処理工程（スチーム）について 食中毒について
名護市食肉センター	2009年8月7日	と畜解体作業従事者	30名	と畜作業衛生等に係る講習

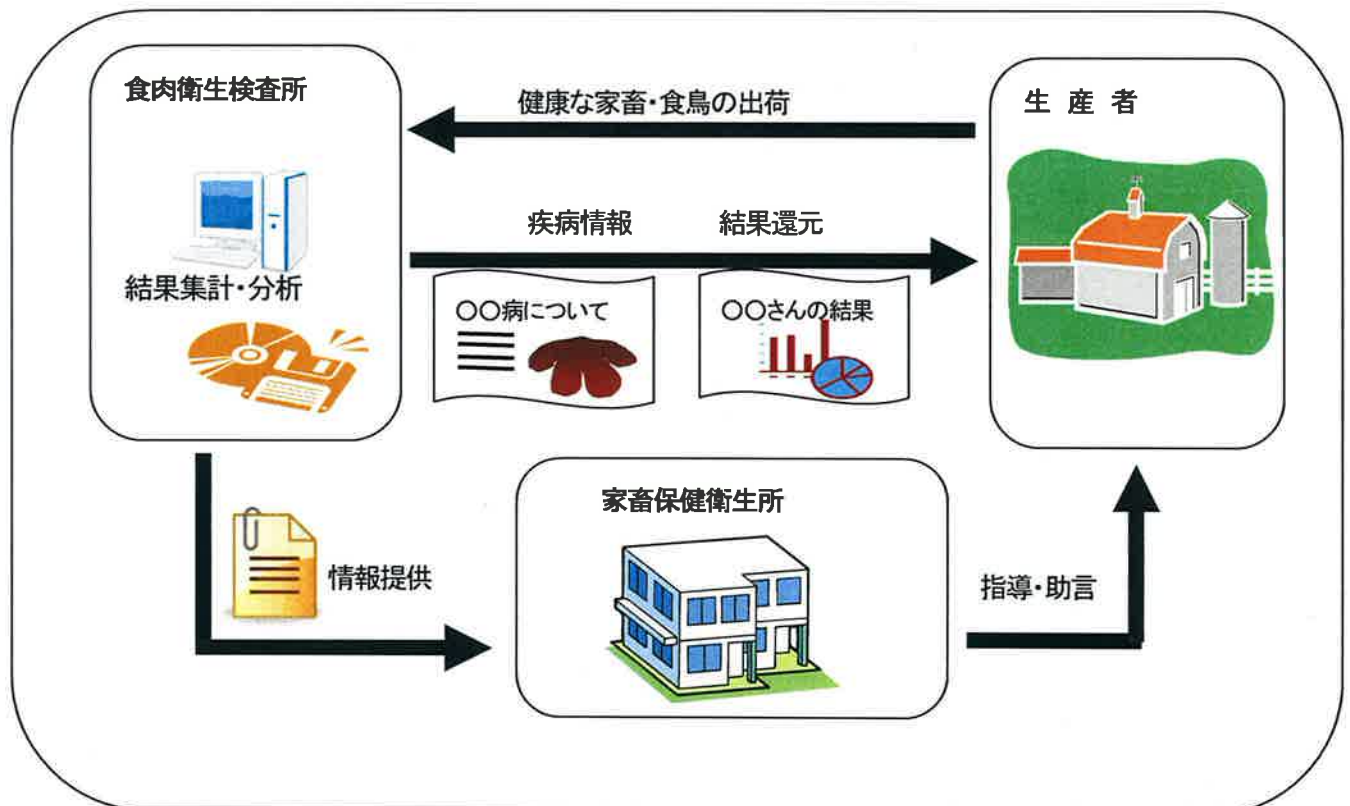
12 と畜場の衛生監視、指導

	内容	実施状況
沖縄県食肉センター	衛生チェック	月1回
	衛生合同会議	月1回
名護市食肉センター	場内監視	毎日
	衛生合同会議	6回

1.3 と畜検査データの還元

検査結果に基づき疾病の発生状況などを整理・分析し、生産者等からの申請に基づきデータを還元しています。生産者が食肉検査データを活用することにより、生産性の向上と健康な家畜の生産に役立てることを目的としています。

	内 容	対 象	件数
中央食検	生産者別と畜検査結果	生産者	50
	届出伝染病発生状況報告	中央家畜保健衛生所	12
		北部家畜保健衛生所	12
	疾病発生状況報告（届出以外）	中央家畜保健衛生所	12
		北部家畜保健衛生所	12
	内臓廃棄明細	沖縄県食肉センター	246
疾病明細	(株)那覇ミート	50	
北部食検	生産者別と畜検査結果	生産者	52
	届出伝染病発生状況報告	中央家畜保健衛生所	12
		北部家畜保健衛生所	12
	疾病発生状況報告（届出以外）	中央家畜保健衛生所	12
		北部家畜保健衛生所	12
内臓廃棄明細	北部食肉協業組合	246	



Ⅱ 食鳥検査業務の概要

1 検査羽数

平成 21 年度の食鳥検査羽数は、3,667,242 羽であった。

前年度に比較して、4.5%(171,618 羽)の減少であった。

種類別では、ブロイラー3,202,387 羽、成鶏 464,850 羽、あひる 5 羽であった。

処理場別では、沖縄食鶏加工 1,835,016 羽、中央食品加工 1,367,371 羽、食鳥流通センター464,855 羽(あひる 5 羽含む)であった。

2 食鳥検査結果に基づく措置

ブロイラーでは、とさつ・内臓の摘出禁止 21,289 羽(検査羽数の 0.7%)、全部廃棄 10,081 羽 (0.3%)、一部廃棄 70,550 羽(2.2%)であった。

成鶏では、とさつ・内臓摘出禁止 63,355 羽(13.6%)、全部廃棄 4,424 羽(1.0%)、一部廃棄 5,280 羽(1.1%)であった。

3 食鳥処理場

食鳥処理場(年間処理羽数 30 万羽以上)は、中央食肉衛生検査所管轄が 2 処理場、北部食肉衛生検査所管轄が 1 処理場で、認定小規模食鳥処理場は、中央食肉衛生検査所管轄が 8 処理場(休止届 3 施設)、北部食肉衛生検査所管轄 15 処理場(休止届 5 施設)である。

4 細菌汚染調査

食鳥処理場の器具、機材及び食鳥と体について拭き取り検査を随時実施し、検査項目として一般細菌、大腸菌群、サルモネラ、カンピロバクター、黄色ブドウ球菌について検査を行っている。

5 食鳥処理場の衛生指導及び衛生教育

大規模食鳥処理場の作業従事者と認定小規模食鳥処理場の両施設の食鳥処理衛生管理者を対象に食鳥肉の衛生管理及び処理技術の向上、食品衛生全般について衛生教育、衛生指導を行っている。

1 食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ、内臓の摘出禁止または廃棄したものの原因

(ブロイラー)

検査羽数		合計			沖縄食鶏			中央食品						
		3,202,387									1,835,016			1,367,371
処分実羽数		禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄				
		21,289	10,081	70,550	11,158	6,961	10,406	10,131	3,120	60,144				
疾病別 羽数	ウイルス	鶏痘												
		伝染性気管支炎												
		伝染性喉頭気管支炎												
		ニューカッスル病												
		鶏白血病												
		封入体肝炎												
		マレック病	4	290			261		4	29				
		その他												
	細菌	大腸菌症		3,029			1,819			1,210				
		伝染性コリーザ												
		サルモネラ症												
		ブドウ球菌症		41			8			33				
		その他												
	その他の 疾病	膿毒症												
		敗血症		322			193			129				
		真菌症												
		原虫病												
		寄生虫病												
		変性	5,017	450	6,050	4,554	355	5	463	95	6,045			
		尿酸塩沈着症												
		水腫	13	3	1	13	3	1						
		腹水症	2,165	212		1,732	123		433	89				
		出血	89	131	855	4	59	89	85	72	766			
		炎症	2,272	3,668	63,349	905	2,900	10,240	1,367	768	53,109			
		腫瘍		19	224		8			11	224			
		異常体温												
		黄疸												
外傷		98	29	71	9	29	71	89						
中毒諸症														
削瘦及び發育不良		8,958	1,567		2,269	1,036		6,689	531					
放血不良		2,529	296		1,650	143		879	153					
湯漬過度		144	24		22	24		122						
その他														
計	21,289	10,081	70,550	11,158	6,961	10,406	10,131	3,120	60,144					

(成鶏)

		合 計			食鳥流通センター			
検 査 羽 数		464,850			464,850			
処 分 実 羽 数		禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄	禁 止	全 部 廃 棄	一 部 廃 棄	
		63,355	4,424	5,280	63,355	4,424	5,280	
疾 病 別 羽 数	ウ イ ル ス	鶏痘						
		伝染性気管支炎						
		伝染性喉頭気管支炎						
		ニューカッスル病						
		鶏白血病		2			2	
		封入体肝炎						
		マレック病		16			16	
		その他						
	細 菌	大腸菌症		33			33	
		伝染性コリーザ						
		サルモネラ症						
		ブドウ球菌症						
		その他						
	そ の 他 の 疾 病	膿毒症						
		敗血症		30			30	
		真菌症						
		原虫病						
		寄生虫病						
		変性	1	61	2,013	1	61	2,013
		尿酸塩沈着症						
		水腫		1			1	
		腹水症	7,694	232		7,694	232	
		出血	4	176	1,835	4	176	1,835
		炎症	10,329	1,263	1,003	10,329	1,263	1,003
		萎縮						
		腫瘍	7	2,438	429	7	2,438	429
		異常体温						
		黄疸						
		外傷	22,212	83		22,212	83	
		削瘦及び発育不良	21,262	89		21,262	89	
		放血不良	1,846			1,846		
		湯漬過度						
		その他						
計	63,355	4,424	5,280	63,355	4,424	5,280		

2 月別検査羽数及び廃棄状況

月	合 計		沖縄食鶏		中央食品		食鳥流通センター	
	検査羽数	禁止・全部 廃棄数及び 廃棄率 (%)	検査羽数	禁止・全 部廃棄数 及び廃棄 率 (%)	検査羽数	禁止・全部 廃棄数及び 廃棄率 (%)	検査羽数	禁止・全部 廃棄数及び 廃棄率 (%)
4	326,471	4,415 (1.35)	156,495	1,775 (1.13)	120,965	1,493 (1.23)	49,011	1,147 (2.34)
5	316,524	4,565 (1.44)	152,709	2,165 (1.42)	121,284	1,531 (1.26)	42,531	869 (2.04)
6	291,318	2,948 (1.01)	153,299	1,111 (0.72)	125,528	1,317 (1.05)	12,491	520 (4.16)
7	304,165	2,820 (0.93)	156,465	662 (0.42)	120,818	1,402 (1.16)	26,882	756 (2.81)
8	318,666	4,087 (1.28)	151,898	1,505 (0.99)	112,148	1,286 (1.15)	54,620	1,296 (2.37)
9	287,525	3,958 (1.38)	144,829	1,782 (1.23)	101,636	1,122 (1.10)	41,060	1,054 (2.57)
10	317,742	3,480 (1.10)	157,598	1,562 (0.99)	109,502	769 (0.70)	50,642	1,149 (2.27)
11	271,677	3,271 (1.20)	156,076	1,844 (1.18)	106,085	745 (0.70)	9,516	682 (7.17)
12	350,461	6,912 (1.97)	170,330	1,810 (1.06)	132,633	992 (0.74)	47,498	4,110 (8.65)
1	294,657	17,371 (5.90)	138,362	1,194 (0.86)	101,535	653 (0.64)	54,760	15,524 (28.35)
2	278,545	16,485 (5.92)	147,532	1,362 (0.92)	103,897	1,039 (1.00)	27,116	14,084 (51.94)
3	309,491	28,837 (9.32)	149,423	1,347 (0.90)	111,340	902 (0.81)	48,728	26,588 (54.56)
合 計	3,667,242	99,149 (2.70)	1,835,016	18,119 (0.99)	1,367,371	13,251 (0.97)	464,855	67,779 (14.58)

※食鳥流通センター6月にあひるも含む

3 食鳥検査結果に基づく処分実羽数（ブロイラー・成鶏・あひる）

		合 計	沖縄食鶏 (ブロイラー)	中央食品 (ブロイラー)	食鳥流通センター (成鶏、あひる)
検査羽数		3,667,242	1,835,016	1,367,371	464,855
処分実羽数		174,979	28,525	73,395	73,059
内 訳	禁 止	84,644	11,158	10,131	63,355
	全部廃棄	14,505	6,961	3,120	4,424
	一部廃棄	76,130	10,406	60,444	5,280

4 食鳥処理場の現状

		合 計	沖縄食鶏	中央食品	食鳥流通センター
検 査 羽 数	ブロイラー	3,202,387	1,835,016	1,367,371	
	成 鶏	464,850			464,850
	あひる	5			5
	七面鳥				
	計	3,667,242	1,835,016	1,367,371	464,855
操 業 日 数		763	269	259	235
一日処理能力		23,000	12,000	8,000	3,000
月平均処理羽数		305,604	152,918	113,948	38,738
延べ検査員数		1,562	553	536	473
一日当たり検査員数		6	2	2	2
一日当たり検査羽数		4,806	6,822	5,279	1,978

5 食鳥処理場別の開場日数及び検査延べ人員

		合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
沖縄食鶏	検査員数	545	45	47	46	46	44	46	44	46	48	42	44	47
	開場日数	269	22	22	23	23	23	22	23	22	24	21	22	22
中央食品	検査員数	536	45	48	48	48	44	42	46	42	49	40	40	44
	開場日数	259	21	22	22	22	22	21	23	21	23	20	20	22
食鳥流通 センター	検査員数	473	44	40	20	28	52	40	52	18	42	42	40	55
	開場日数	235	22	20	10	14	26	20	26	9	21	21	20	26

6 10年間の食鳥検査羽数(沖縄県全体と同一)

処理場名	鳥種	計	平成									
			12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
総数		36,628,055	3,870,168	3,708,673	3,627,100	3,441,605	3,501,926	3,606,431	3,638,641	3,727,409	3,838,860	3,667,242
食鳥流通センター	成鶏	4,748,744	449,165	493,404	471,536	480,320	488,849	504,315	489,907	463,965	442,433	464,850
	あひる	23									18	5
沖縄食鶏	プロイラー	18,141,942	2,051,335	1,862,496	1,763,637	1,677,352	1,730,234	1,758,121	1,791,472	1,793,540	1,878,739	1,835,016
	成鶏	17	17									
中央食品	プロイラー	13,737,316	1,369,651	1,352,760	1,391,927	1,283,933	1,282,843	1,343,995	1,357,262	1,469,904	1,517,670	1,367,371
	成鶏	0										
	あひる	13		13								

7 認定小規模食鳥処理場

(1) 処理場数 (とさつ一貫処理)

	合計	鶏 処理施設	あひる 処理施設	鶏・あひる 処理施設	鶏・あひる・七面鳥 処理施設
中央食検	8(3)	3	1(1)	3(1)	1(1)
北部食検	15(5)	2(1)	1	6(3)	6(1)
合計	23(8)	5(1)	2(1)	9(4)	7(2)

*注 () 内の数字は休止中の処理施設で内数である

(2) 確認(処理)状況

(中央食検管内)

	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		確認羽数	成鶏	722	702	995	882	766	312	1,013	796	1,006	724	724
あひる	17		26	13	0	0	56	0	10	0	0	0	0	122
禁止・全部 廃棄数及び 廃棄率 (%)	成鶏	10	12	13	14	11	12	9	10	10	7	7	8	123
		(1.4)	(1.7)	(1.4)	(1.6)	(1.4)	(3.8)	(0.9)	(1.3)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(1.3)
	あひる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)

(北部食検管内)

	種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
確認羽数	成鶏	7,112	3,106	6,522	5,696	6,244	3,949	7,407	5,050	5,384	6,525	2,804	6,490	66,289
	あひる	243	218	279	253	200	141	133	174	220	145	122	241	2,369
	七面鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
禁止・全部廃棄数及び廃棄率 (%)	成鶏	532	145	471	432	449	149	528	294	289	509	129	468	4,395
		(7.5)	(4.7)	(7.2)	(7.6)	(7.2)	(3.8)	(7.1)	(5.8)	(5.4)	(7.8)	(4.6)	(7.2)	(6.6)
	あひる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
	七面鳥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)

(3) 処理場別の処理羽数

	名 称	成 鶏	ブロイラー	あひる	七面鳥	計
中 央 食 検	1 松本食鳥加工店※					0
	2 アヒル園とけし			56		56
	3 仲座養鶏場	3,500				3,500
	4 上原養鶏場	5,301				5,301
	5 中川牧場	17		66		83
	6 (有) 沖縄ダチョウ処理場※					0
	7 県立南部農林高校	600				600
	8 丸嘉合鴨農園※					0
北 部 食 検	1 徳安食品※					0
	2 (有) ニワトリ牧場※					0
	3 安室養鶏場ヤンバル農場	13,580				13,580
	4 瀬宮食鳥処理センター	45,090				45,090
	5 安村食肉販売店※					0
	6 森山農場食鳥処理場	259				259
	7 高江食鳥処理場			58		58
	8 丸武物産	0				0
	9 玉城養鶏場	7,360				7,360
	10 アガリエ※					0
	11 名嘉食品			159		159
	12 やんばる食鳥処理場※					0
	13 食鳥処理センター松林			56		56
	14 農業生産法人(有) 乙羽ファーム			122		122
	15 伊江農産			1,967		1,967
総計(23施設)		75,707	0	2,484	0	78,191

※休止中

(4) 立入検査件数

	立入検査処理場数	立入検査件数
中央食検	5	5
北部食検	12	12

8 食鳥処理場の衛生指導・衛生講習会等

処理場名	名称	開催月日	対象者	人数	内容
食鳥流通センター	衛生講習会	9月11日	食鳥処理場関係者及び従事者	14	<ul style="list-style-type: none"> 拭き取り検査結果について 食中毒予防について
沖縄食鶏	衛生講習会	8月13日	〃 〃	77	<ul style="list-style-type: none"> 安全な食鳥肉を消費者に安心して食べてもらうために 新型インフルエンザについて
中央食品	衛生講習会	8月20日	食鳥処理従事者	91	<ul style="list-style-type: none"> 拭取り検査結果 食中毒菌とその対策 鶏の肝臓病変と検査時の注意点 (食鳥衛生管理者向け)

Ⅲ 精密検査業務の概要

1 保留に係る精密検査業務実績

本年度、中央食検は牛 194 頭、豚 734 頭、合計 928 頭、北部食検は牛 1 頭、豚 360 頭、合計 307 頭について保留に係る精密検査を実施した。

牛では白血病 1 頭、その他の悪性腫瘍 15 頭、敗血症 5 頭、黄疸 2 頭であった。

豚では豚丹毒が 391 頭（中央 280 頭、北部 111 頭）ともっとも多く、次いでサルモネラ症が 159 頭（中央 90 頭、北部 69 頭）、トキソプラズマ病 97 頭（中央 31 頭、北部 66 頭）の順であった。

(中央食検)

畜種	病類	検査頭数	精密検査内容			検査結果		
			細菌	病理・寄生虫	理化学	全部廃棄	合格	
牛	白血病	0						
	水腫	1			1	1		
	黄疸	2			2	1	1	
	その他の悪性腫瘍	14		14		14		
	敗血症	5	5			4	1	
	残留抗生物質	172			172	0	172	
	小計	194	5	14	175	20	174	
馬								
	小計							
豚	膿毒症	9	9			9	0	
	敗血症	抗酸菌	20		20		6	14
		その他の細菌	34	34			7	27
	豚丹毒	じん麻疹型	22	22			20	2
		関節炎型	244	244			122	122
		心内膜炎型	14	14			14	
		敗血症型	0					
		小計	280	280			156	124
	サルモネラ症	90	90			46	44	
	トキソプラズマ病	31		31		27	4	
	住肉胞子虫症	27		27		16	11	
	尿毒症	0						
	黄疸	2			2	1	1	
	筋肉変性(中毒諸症)	4			4	4	0	
	悪性黒色腫	2		2		2	0	
	その他悪性腫瘍	2		2		2	0	
	残留抗生物質	233			233	4	229	
小計	734	413	82	239	280	454		
合計	928	418	96	414	300	628		

(北部食検)

畜種	病類	検査頭数	精密検査内容			検査結果		
			細菌	病理・寄生虫	理化学	全部廃棄	合格	
牛	白血病	1		1		1		
	小計	1		1		1		
豚	敗血症	抗酸菌	43		43		10	33
		その他の細菌	8	8			1	7
	豚丹毒	じん麻疹型	10	10			4	6
		関節炎型	93	93			12	81
		心内膜炎型	8	8			0	8
	サルモネラ症	69	69			39	30	
	トキソプラズマ病	66		66		55	11	
	黄疽	3			3		3	
	悪性黒色腫	4		4		4		
	その他の悪性腫瘍	2		2		2		
	小計	306	188	115	3	127	179	
合計	307	188	116	3	128	179		

2 伝達性海綿状脳症（TSE）検査業務実績

本県におけるTSEスクリーニング検査はすべて中央食肉衛生検査所で行っている。
平成20年度は牛4,640頭、山羊1,320頭の検査を実施し、結果はすべて陰性であった。

(1) 牛

ア) 検査頭数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総計	計	4,640	425	352	351	404	360	325	385	419	529	327	395	368
	和牛	3,849	352	304	293	351	309	273	310	330	447	254	316	310
	乳牛	705	60	44	49	47	46	44	72	79	72	67	73	52
	その他	86	13	4	9	6	5	8	3	10	10	6	6	6
中央食検	計	2,444	232	196	169	215	173	171	195	223	259	191	225	195
	和牛	1,675	163	150	111	163	123	120	121	135	183	122	147	137
	乳牛	689	57	42	49	46	45	43	71	78	68	66	72	52
	その他	80	12	4	9	6	5	8	3	10	8	3	6	6
北部食検	計	140	16	9	13	17	13	8	9	12	20	6	10	7
	和牛	136	14	9	13	17	13	8	9	12	19	5	10	7
	乳牛	1	1											
	その他	3	1								1	1		
八重山	計	1,472	123	101	113	130	132	108	127	138	159	105	118	118
	和牛	1,465	121	101	113	130	132	107	127	138	157	103	118	118
	乳牛	4	2					1			1			
	その他	3									1	2		
宮古	計	545	49	44	52	39	38	36	51	42	84	24	41	45
	和牛	534	49	42	52	38	37	36	50	41	81	23	40	45
	乳牛	11		2		1	1		1	1	3	1	1	
	その他	0												
久米島	計	39	5	2	4	3	4	2	3	4	7	1	1	3
	和牛	39	5	2	4	3	4	2	3	4	7	1	1	3
	乳牛	0												

※中央食検9月3頭、10月1頭のとくを含む

イ) 検査区分別内訳頭数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総計	計	4,640	425	352	351	404	360	325	385	419	529	327	395	368
	ア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	イ	3,562	325	292	267	286	255	212	293	325	414	250	349	294
	ウ	1,078	100	60	84	118	105	113	92	94	115	77	46	74

ア：生後24ヶ月齢以上のうち、生体検査において運動障害、反射又は意識障害などの神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛

イ：生後30ヶ月齢以上の牛

ウ：その他の（ア及びイ以外）の牛

(2) めん羊及び山羊

ア) 検査頭数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総計	1320	163	106	110	125	101	90	116	95	112	79	92	131
北部食検	680	90	52	63	60	45	46	69	45	50	54	45	61
八重山	161	14	12	10	14	18	14	16	13	12	7	14	17
宮古	335	38	29	26	33	27	17	25	31	32	13	25	39
久米島	144	21	13	11	18	11	13	6	6	18	5	8	14

イ) 検査内訳頭数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総	計	1320	163	106	110	125	101	90	116	95	112	79	92	131
	ア	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	イ	1319	162	106	110	125	101	90	116	95	112	79	92	131
計	ウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

ア： 症状を呈するめん羊及び山羊

イ： その他のめん羊及び山羊

ウ： 12ヶ月齢未満のめん羊及び山羊で検査を実施しなかった頭数

3 微生物室業務実績

細菌性疾病の疑いのある保留獣畜について、細菌学的検査を行っている。保留獣畜の検査は、中央食検では、豚 404 頭、北部食検では、豚 186 頭であった。

また、衛生的処理の確認検査として、施設や枝肉の拭き取り検査及び牛枝肉のグリア繊維性酸性タンパク (GFAP) 残留量調査等を行っている。

(1) 保留検体の精密検査

畜種	病類	中央食検			北部食検			
		検査頭数	培養検査	PCR検査	検査頭数	培養検査	PCR検査	
豚	敗血症	34	34		8	8		
	豚丹毒	じん麻疹型	22	22		10	10	
		関節炎型	244	244		93	93	
		心内膜炎型	14	14		8	8	
		敗血症型	0	0				
	豚赤痢	0	0	0				
	サルモネラ症	90	90		69	69		
合計	404	404	0	188	188	0		

(2) 拭き取り検査

ア) 施設・処理工程

(中央食検)

実施施設 (畜種)	調査ポイント数	大腸菌群陽性数	食中毒原因菌 (陽性数)		
			黄色ブドウ球菌	サルモネラ	カンピロバクター
(株) 沖縄食鶏加工	18	3	NT	1	3
(株) 沖縄県鶏卵食鳥流通センター	20	4	NT	4	4
計	38	7	0	5	7

(北部食検)

実施施設 (畜種)	調査ポイント数	大腸菌群陽性数	食中毒原因菌 (陽性数)		
			黄色ブドウ球菌	サルモネラ	カンピロバクター
中央食品加工 (プロイラー)	14	4	NT	0	6
計	14	4	0	0	6

※大腸菌群数は有効数以上のものを陽性とした。 NT：検査未実施

イ) 枝肉

(中央食検)

畜種	検体数	大腸菌群陽性数	食中毒原因菌(陽性数)		
			黄色ブドウ球菌	サルモネラ	カンピロバクター
牛	48	10	NT	NT	NT
豚	130	10	NT	NT	NT
鶏(ブロイラー)	28	2	NT	5	14
鶏(成鶏)	27	3	NT	0	11
計	233	25	NT	5	25

※大腸菌群数は有効数以上のものを陽性とした。 NT: 検査未実施

(北部食検)

畜種	検体数	大腸菌群陽性数	食中毒原因菌		
			黄色ブドウ球菌	サルモネラ	カンピロバクター
牛	20	0	NT	NT	NT
豚	198	4	NT	NT	NT
山羊	32	0	NT	NT	NT
鶏(ブロイラー)	20	10	NT	5	10
計	270	14	0	5	10

※大腸菌群数は有効数以上のものを陽性とした。(鶏は除く) NT: 検査未実施

(3) 牛枝肉のグリア繊維性酸性タンパク(GFAP)残留量調査

牛解体処理工程において脳・脊髄が適切に洗浄・除去されているか確認するために中枢神経系の細胞マーカーであるグリア繊維性酸性タンパク(GFAP)の残留量測定を行っている。

牛枝肉(中央食検27頭、北部食検15頭、宮古23頭、八重山30頭、久米島7頭)の頸椎周囲と外側腹部についてGFAP残留量を測定した。

(4) 検査技術の検証

検査の信頼性を確保するため、既知の微生物を含む特別な試験品から当該微生物を検出、分離、同定する技術の検証を行っている。

第1回

検査項目(定性試験): 大腸菌群の有無、黄色ブドウ球菌の有無、*E. coli*の有無、サルモネラ菌の有無

試料: 模擬食材

第2回

検査項目(定性試験): 細菌数測定、大腸菌群の有無

試料: 牛乳

4 病理室業務実績

病理室では、肉眼及び組織学的検索を必要とする検体の病理組織学的検査を行っている。

保留検査に係る検査は、中央食検では豚 82 頭、牛 16 頭、北部食検では豚 30 頭、牛 1 頭であった。

(中央食検)

病理組織学的検査総数 (外部依頼検体を含む)		241	
炎症		179	
腫瘍		53	
変性		4	
その他		5	
畜種	区分	診断名	件数
豚	炎症	抗酸菌症 (2) で詳細	20
		細菌性心内膜炎	43
		寄生虫性間質性肝炎	2
		肉芽腫性肝炎	1
		化膿性肉芽腫性肝炎	1
		肝の多発性巣状壊死	34
		内、サルモネラによる	19
		トキソプラズマによる	4
		糸球体腎炎	5
		間質性腎炎	25
		出血性糸球体腎炎	1
		腎梗塞	6
		腎盂腎炎	5
	腫瘍	悪性黒色腫	2
		豚白血病	2
	変性	肝の混濁腫脹	1
	その他	脾臓の脂肪壊死	1
		肝のリンパ濾胞	2
		肝臓の結節性過形成	2
	小計		176

畜種	区分	診断名	件数
牛	腫瘍	リンパ腫	12
		顆粒膜細胞腫	1
		乳頭腫	1
		肝細胞癌	1
	炎症	細菌性心内膜炎	5
	変性	肝の脂肪変性	1
小計			21
鶏	炎症	壊死性肝炎	6
		出血性肝炎	1
	腫瘍	マレック病	28
		リンパ性白血病	0
		卵管腺癌	2
		卵巢腺癌	1
	変性	肝の脂肪変性	2
小計			40

外部依頼検体

畜種	区分	診断名	件数
牛	炎症	細菌性心内膜炎	1
	腫瘍	リンパ腫	1
		顆粒膜細胞腫	1
		中皮腫	1
合計			4

(北部食検)

病理組織学的検査総数 (外部依頼検体を含む)		235	
炎症		163	
腫瘍		32	
変性		18	
その他		22	
畜種	区分	診断名	件数
豚	炎症	抗酸菌症 (2) で詳細	10
		間質性肝炎	8
		出血性間質性肝炎	1
		好酸球性間質性肝炎	3
		限局的好酸球性間質性肝炎	1
		間質増生を伴う好酸球性間質性肝	1
		空胞変性を伴う間質性肝炎	1
		グリコーゲン変性を伴う間質性肝	1
		壊死性肝炎	13
		間質性肝炎を伴う出血性壊死性肝	1
		間質性肝炎を伴う壊死性肝炎	2
		出血性壊死性肝炎	3
		外側左葉のみの壊死性肝炎	1
		巣状性壊死性肝炎	8
		出血性巣状性壊死性肝炎	1
		好酸球性間質性肝炎を伴う巣状性	1
		壊死性化膿性肝炎	3
		空胞変性を伴う巣状肝炎	1
		慢性ウイルス肝炎	2
		急性ウイルス肝炎	1
		赤血球貯留を伴うウイルス肝炎	1
		壊死性好酸球性肝炎	2
		リンパ腫を伴う好酸球性肝炎	1
		肝炎	2
		肝包膜炎	1
		肝表面に付着した異物性肉芽腫	1
		好酸球性間質性肝炎及び限局性結	1
		好酸球浸潤を伴う肝線維症	1
		壊死性リンパ節炎	3
		慢性リンパ節炎	1
		急性リンパ節炎	5
		リンパ節炎	3
		巣状性壊死性リンパ節炎	2
		好酸球性リンパ節炎	1
		出血性リンパ節炎	1
		TPによる壊死性肝炎及びリンパ節	1
		カタル性肺炎	1
		気管支肺炎	1
		間質性腎炎	2
		糸球体腎炎	1
		巣状性間質性腎炎	1
		腎盂腎炎	2

畜種	区分	診断名	件数
豚	炎症	壊死性脾炎	3
		増殖性腸炎	2
		線維素性関節炎	1
		肉芽腫性炎	7
		脂肪織炎	1
		疣状性心内膜炎	3
		石灰化を伴う好酸球性肉芽腫性筋	1
	腫瘍	リンパ腫	3
		リンパ性白血病	1
		腎芽腫	1
		上皮型腎芽腫	1
		肉芽腫型血管腫	1
		悪性黒色腫	7
		肝細胞癌	1
		肝細胞腺腫	1
		肝胆管腺腫	1
		変性	胆汁性肝硬変
	寄生虫性肝硬変		1
	肝細胞変性		1
	肝細胞の糖源変性		1
	肝の小葉中心性脂肪変性		3
	肝の空胞変性		1
	尿細管変性		1
	筋肉内出血及び尿細管変性		1
	腎の脂肪変性		1
	変性の著しい心筋梗塞		1
	その他	肝の結節性過形成	1
		石灰化を伴うリンパ濾胞	3
		潜伏辜丸	1
		動脈肥厚	1
不明		6	
著変なし		4	
小計			161

畜種	区分	診断名	件数
牛	腫瘍	リンパ性白血病	1
	変性	変性	1
	その他	肝の限局的結合織増生	1
		不明	1
小計			4

畜種	区分	診断名	件数
山羊	炎症	リンパ節炎	1
		好酸球の浸潤を伴うリンパ節炎	1
	変性	肝の脂肪変性	1
小計			3

畜種	区分	診断名	件数
鶏	炎症	壊死性肝炎	5
		出血性壊死性肝炎	1
		巣状性壊死性肝炎	8
		肝細胞の変性脱落を伴う巣状性壊死性肝炎	1
		肝炎	13
		慢性肝炎	1
		胆管肝炎	10
		肉芽腫を伴う胆管肝炎	3
		壊死性肝炎を伴う胆管肝炎	2
		肝包膜炎	1
	腫瘍	マレック	12
		胆管肝炎を伴うマレック	1
		形質細胞腫	1
	変性	肝の脂肪変性	4
	その他	胆汁色素を伴ううっ血肝	1
		不明	2
		著変なし	1

(2) 豚の抗酸菌症保留検査

抗酸菌症の保留検査として63頭を検査し、そのうち29頭について病理組織学的検査及び菌検索を行った。

検査結果

- ・病理組織学的検査を行った29頭のうち、16頭（55.1%）が全部廃棄となった。
- ・抗酸菌症特有の組織病変の有無は、部位別に次のとおりである。

腸間膜Ly 28検体		肝臓 29検体		肝付属Ly 21検体	
有	無	有	無	有	無
26	2	25	4	9	12

肺 17検体		肺付属Ly 26検体		浅頸Ly 18検体	
有	無	有	無	有	無
5	12	19	7	2	16

脾臓 19検体		脾付属Ly 14検体		鼠径Ly 22検体	
有	無	有	無	有	無
3	16	0	14	4	18

内腸骨Ly 21検体		膝下Ly 18検体		腸骨下Ly 17検体	
有	無	有	無	有	無
5	16	1	17	2	15

5 理化学室業務実績

中央食検では病畜及び保留検体の精密検査、残留抗菌性物質モニタリング検査（独自モニタリング検査）及び畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査（厚生労働省通知モニタリング検査）を、北部食検では独自モニタリング検査を行っている。

中央食検では平成 21 年度において、病畜の残留抗菌性物質検査を実施した結果、牛 1 頭（3 検体）、豚 6 頭（10 検体）が分別推定法陽性であった。独自モニタリング検査を実施した結果、すべて簡易検査（直接法）陰性であった。厚生労働省通知モニタリング検査を実施した結果、全検体が全項目で陰性であった。

外部精度管理では、（財）食品薬品安全センターから案内のあった鶏筋肉によるスルファジミジン検査を行った。

（1）理化学室業務内容（中央食検）

ア 病畜及び保留検体の精密検査

- 残留抗菌性物質検査（現場試験室の直接法で陽性の検体）
- 筋肉内水分含有量
- 殺鼠剤検査

イ 外部精度管理検査

- スルファジミジン検査（鶏筋肉）

ウ 残留有害物質検査に関すること

- 厚生労働省通知及び独自モニタリング検査
- 抗生物質検査に必要な菌の継代、菌液の作製
- 抗生物質検査に使用する培地の作成（M.L.、B.S.、B.M.）

エ GLP 関係作業

- SOP の作成
- 精度管理作業
- 記録簿の整理・保管

（2）理化学業務実施状況

ア 病畜及び保留検体の精密検査

（ア）残留抗菌性物質検査

病畜として搬入された豚および牛については原則として全頭、残留抗菌性物質検査を行っている。

	牛			合計
	筋肉	腎臓	肝臓	
簡易検査（直接法）	172	172	171	515
陽性数	0	2	1	3

	牛			合計
	筋肉	腎臓	肝臓	
分別推定法	1	1	1	3
陽性数	1	1	1	3

	豚			合計
	筋肉	腎臓	肝臓	
簡易検査（直接法）	233	233	0	466
陽性数	2	7	0	9

	豚			合計
	筋肉	腎臓	肝臓	
分別推定法	6	6	0	12
陽性数	4	6	0	10

イ 外部精度管理検査：スルファジミジン検査（中央食検）

鶏筋肉 1 検体×5回

ウ 残留有害物質モニタリング検査

（ア）厚生労働省通知モニタリング検査

（中央食検）

		牛		豚		鶏		乳	蜂 蜜	鶏 卵	マ ダ イ	エ ビ	合 計
		筋肉	腎臓	筋肉	腎臓	筋肉	腎臓						
抗生物質 （抽出法）	検査数	20	20	30	30	30	30	24	11	29	5	14	243
	陽性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テトラサイクリン系 ¹⁾	検査数							24			5	14	43
	陽性数							0					0
サルファ剤 ²⁾	検査数	20		30		30					5		85
	陽性数	0		0		0					0		0
オキシリン酸 チアンフェニコール	検査数	20		30		30					5	14	99
	陽性数	0		0		0						0	0
ジフラゾン フラゾリドン	検査数			30									30
	陽性数			0									0
オルメトプリム トリメトプリム ピリメタン	検査数												0
	陽性数												0
フルヘンダゾール	検査数									29			29
	陽性数									0			0

1) クロルテトラサイクリン、オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン

2) スルファメラジン、スルファジミジン、スルファモノメトキシ、スルファジメトキシ、スルファキノキサリン

3) 検査継続中の牛筋肉 2 検体及び鶏筋肉 3 検体を含む

(イ) 独自モニタリング検査

(中央食検)

	豚		合計
	筋肉	腎臓	
検査数	240	240	480
陽性数	0	0	0

※分別推定法陽性のものを陽性数とした。

(北部食検)

	豚		合計
	筋肉	腎臓	
検査数	125	125	250
陽性数	3	5	8

※分別推定法陽性のものを陽性数とした。

(3) GLP (業務管理) について

平成8年に食品衛生法施行令の一部改正により、食品衛生検査施設における検査等の業務管理(以下GLP)が義務づけられた。

当検査所では「沖縄県の食品衛生検査施設における検査等の業務管理要綱」に基づき、平成10年7月より実施している。

〈 中央・北部食肉衛生検査所GLP組織図 〉

